廓女の友

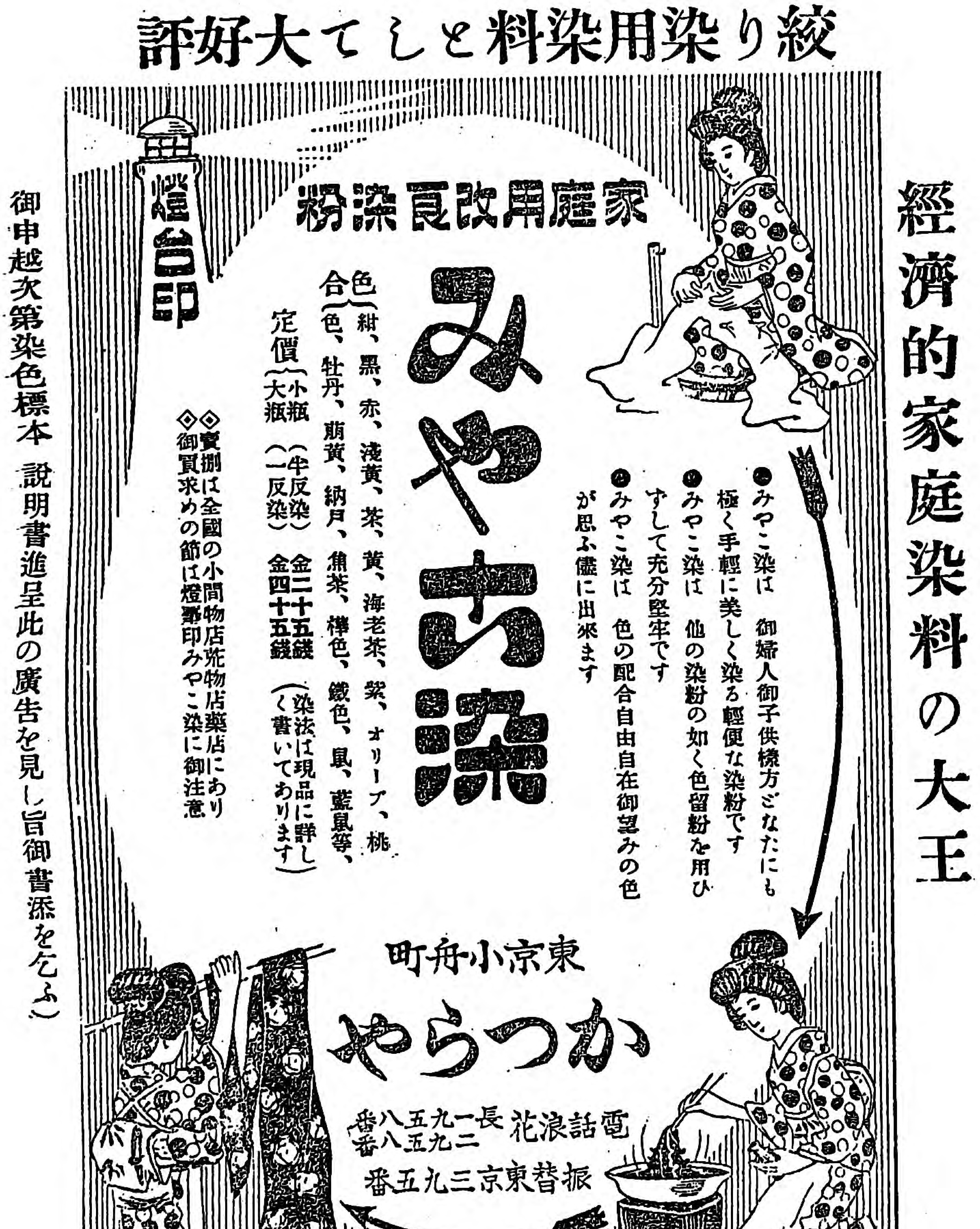
2巻
10号

第二巻　第十二月號

大正八年十一月廿八日印刷納本
大正八年十二月一日發行（毎月一回一日發行）
大正七年十二月二十三日第三種郵便物認可

廓女會中央部發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

青年圖書

大久保四洲著

青年訓話 **軍神乃木**

著者の麗筆に依りて將軍の面目書中に躍出す

四六版三五〇頁
定價四拾錢
＝送料四錢＝

青年團員手牒

青年團員必携の信用狀▲總クロース和紙堅牢無比▲青年團中央部編纂
定價拾錢＝送料三部迄貳錢

帝國青年の歌

豪壯の歌勇快の曲＝▲青年團中央部選▲島崎東京音樂學校教授作曲
定價五錢＝送料九部迄貳錢

青年團體操

器具不用且場所を要せず實行簡易▲陸軍戸山學校選青年團中央部編纂
定價五錢＝送料四部迄貳錢

緬羊の飼ひ方

青年團中央部農業主任和田穩新著
平明懇切總振假名付袖珍形頗美本
定價六拾五錢＝送料四錢

青年團指導

青年團改善指導の標準書▲青年團中央部編纂▲菊判三百八十有餘頁
定價壹圓參拾錢＝送料拾貳錢

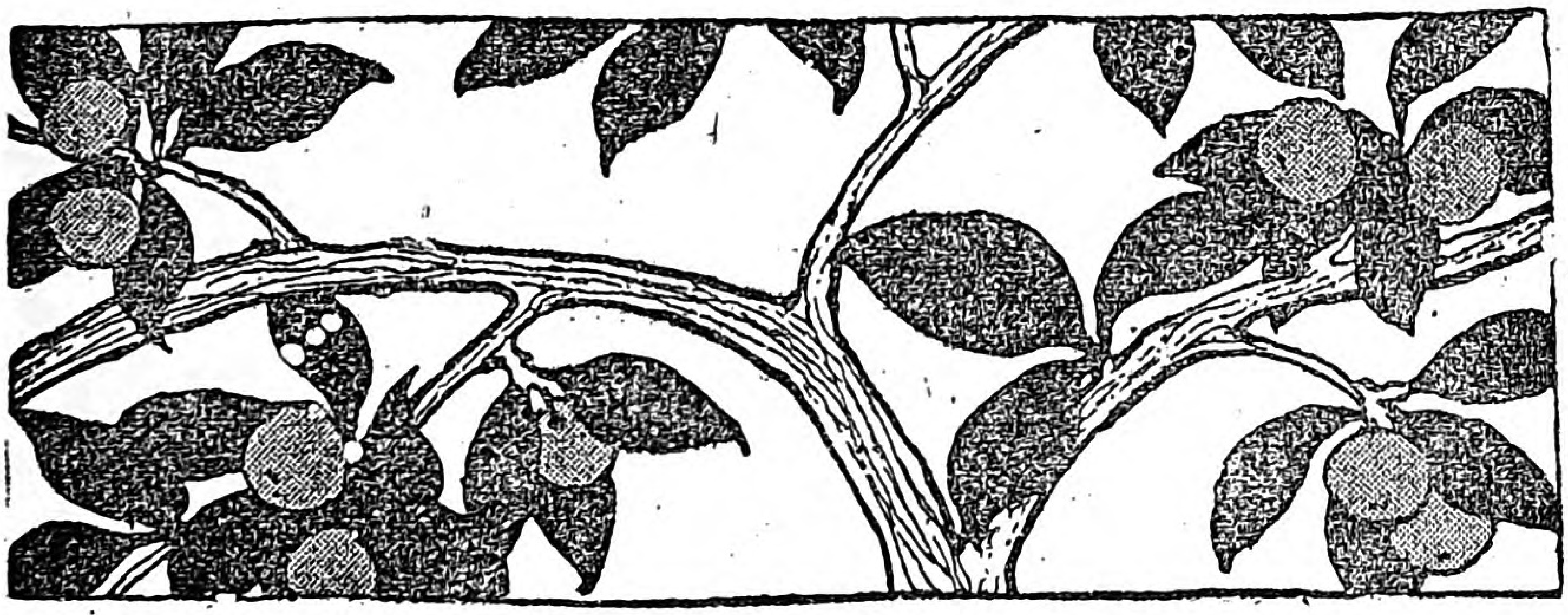
趣味讀本 通俗文學

文部省普通學務局玉井廣平先生著
青年の娯樂用課外讀本として好適
定價七拾五錢＝送料六錢

地方 青年の教養

内務省監察官守屋榮夫先生著▲青年團員教養に關する新研究の發表
定價壹圓參拾錢＝送料拾貳錢

東京市赤坂區溜池町三十一番地
帝國青年發行所
電話芝六二三三番
振替口座東京二一六八番



處女の友

十二月號

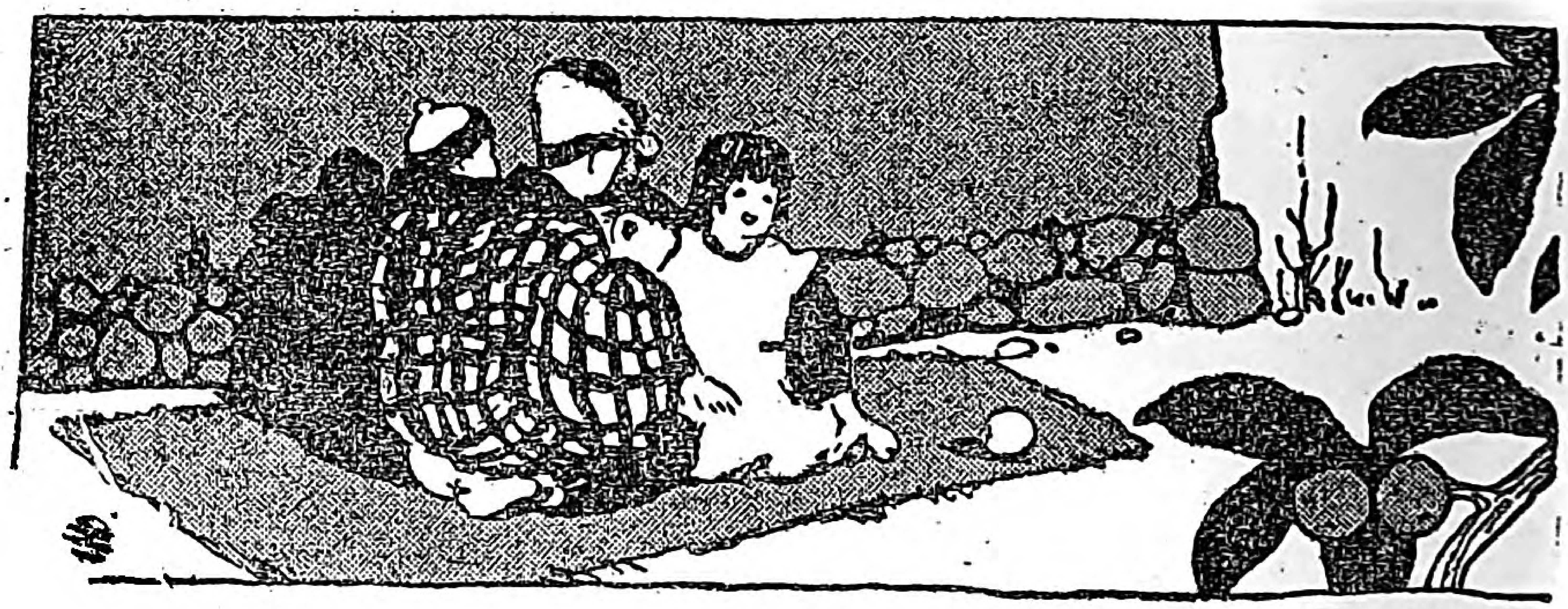
大正八年十二月一日發行

□表紙（わたりどり）……田代紫光筆
□口繪　地方處女會の活動

○記事

▽卷頭（ゆく年を追はず來る年を迎へん）……一
▽田家の早梅……二
▽國際勞働會議と婦人勞働……三
▽月下氷人としての余の箴言……男爵　石黑忠悳……七
▽明治天皇梅花御製……九
▽農村の婦人へ……成女高等女學校長　宮田脩……一〇
▽忍耐の價値……中央部理事　山脇房子……一四
▽若くなるお藥……中央部理事　天野藤男……一六
▽花嫁に紀念の指環を……一九
▽氏神々前のお別れの式……二〇
▽田舍娘のお房さん……二三
▽處女哀話　都にあこがれて（其の三）……白雲生作……二四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



▽少女の心と秋……二七
▽男のお産……二九
▽仕合せな田舍の乙女……三一
▽孝女白菊の歌……三二
▽女子の本分……四一
▽結婚と青年と處女……四四
▽日常心得草……四四
▽鄙ぶり……四六
▽落語……四六
▽働の字議……四六
▽働いて下さる妹方に……四八
▽富士瓦斯小山工場……四八
▽冬立つ日……五〇
▽活動寫眞をとるの記……五一
▽婦人働き會……五五
▽婦人働き會々則……五五
▽工場より……五七
▽處女文壇……五八
▽編輯便り……六二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

斯民

十二月號 一部 二十錢

時局大觀……床次内相
富と人生……山下信義
思想問題に就て……守屋榮夫
物價問題と食糧政策……橋田丑吾
卓越せる我國の家庭……村田宇一郎
大戰の影響と國民の覺醒……今井兼寛
志摩の蜑婦と漁村婦人の勤勞……天野藤男

井上博士追悼錄

▲智德協調の人格者……下村宏
▲知事としての井上博士……岩田衛
▲故博士の感化……藤田俱治郎
▲至誠人言を容る……加山安衛

内務書記官 田子一民先生著

最新刊

米國に於けるアルコール戰

價三十錢 送料四錢

世界の驚異たる全米國の禁酒法案通過は、現代に於ける最も注目すべき社會運動なり。著者親しく米國禁酒運動の由來と其の沿革を究め、感慨禁ずる能はざるものあり、敢て此一書を提供して我同胞の反省に資するあらんとせる者即ち本書也。

井口丑二先生撰

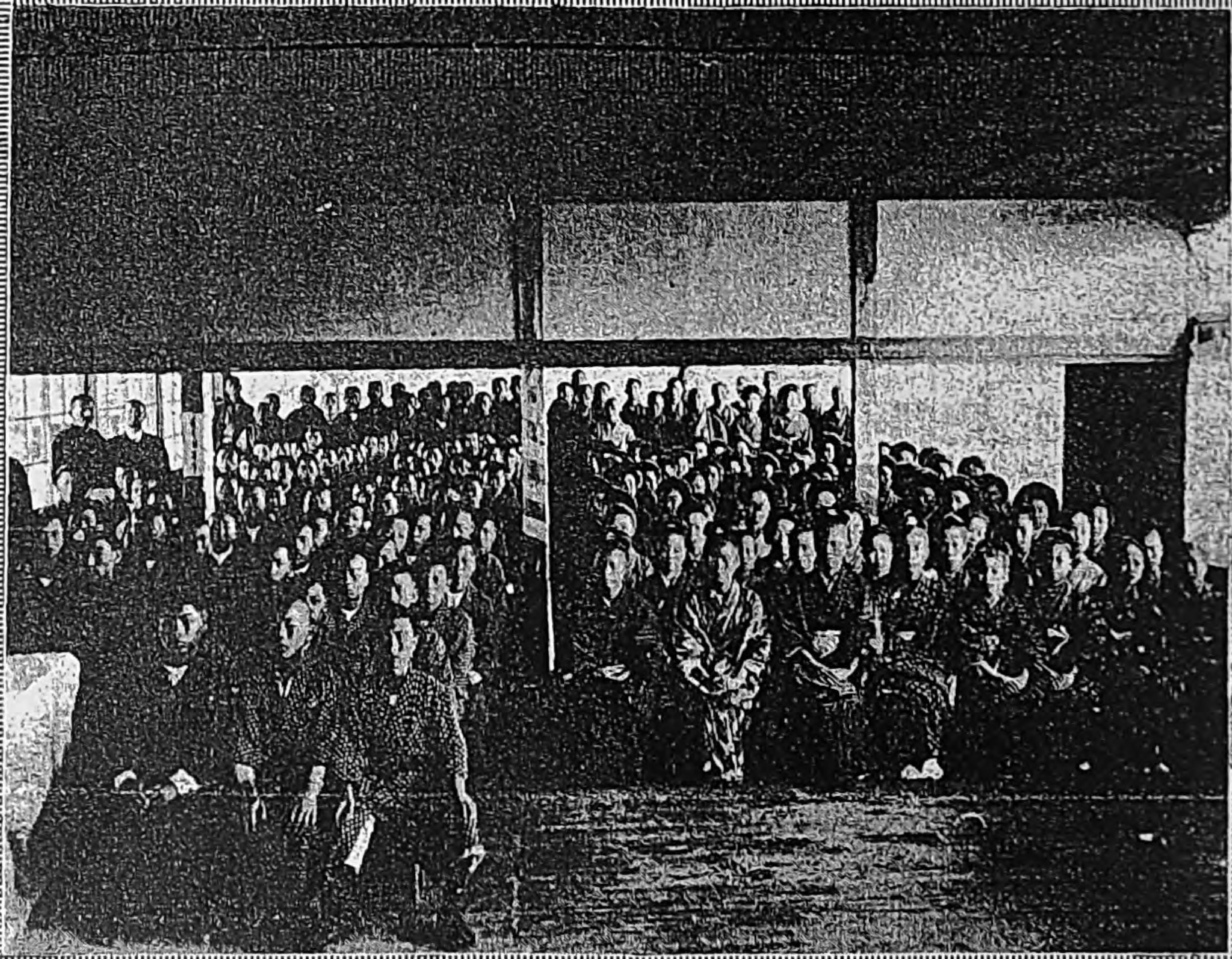
二宮翁金言集

〔七版〕價二十五錢 送料四錢

二宮翁大教訓の精髓は收めて此の書中に在り。以て修養の指針となすべく座右の銘となすべきものあらん。

東京赤坂區溜池町三一 **中央報德會** 振替東京九七〇〇

地方處女會の活動



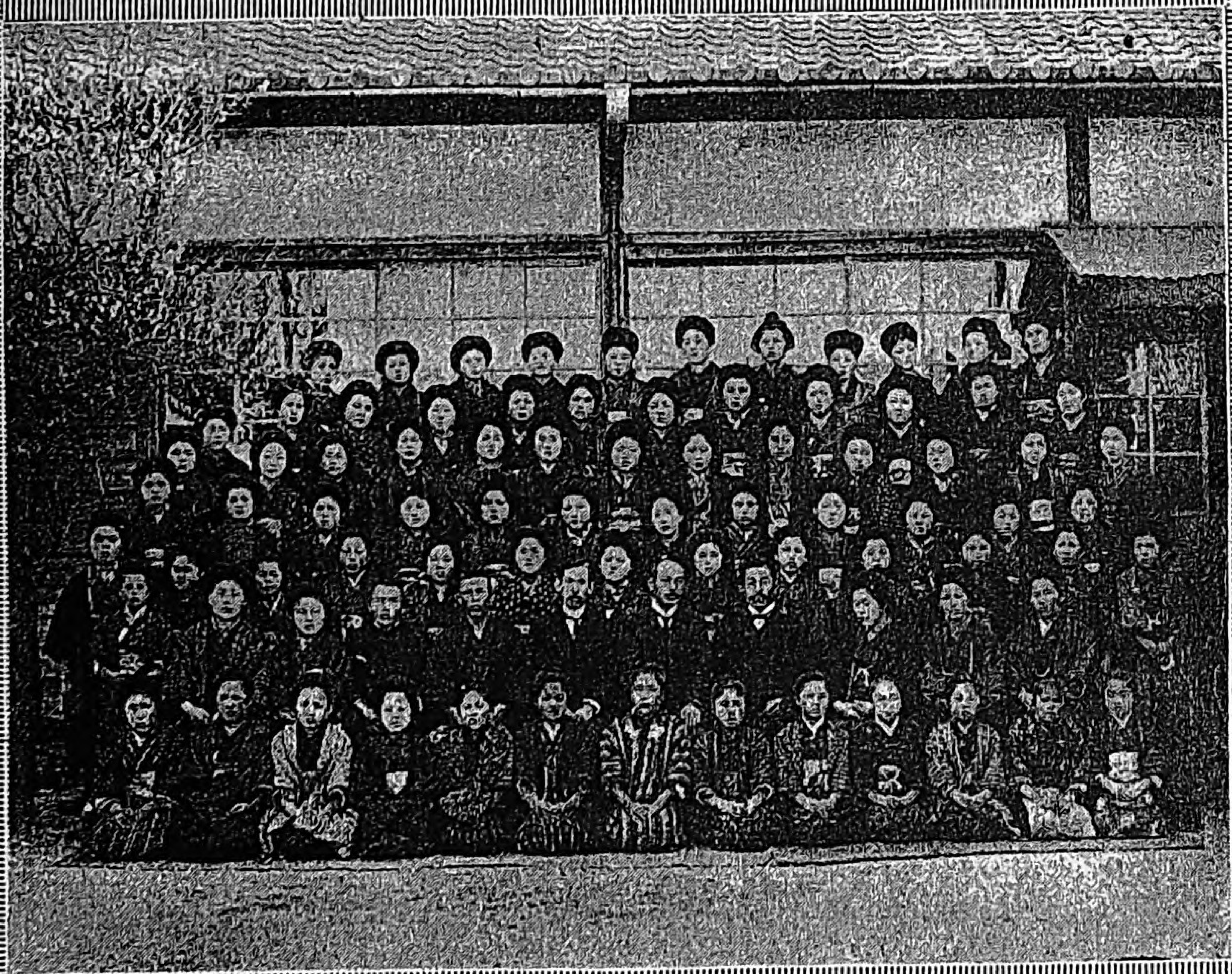
靜岡縣濱名郡吉野村青年會處女會聯合修養會

群馬縣勢多郡木瀬村野中處女會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

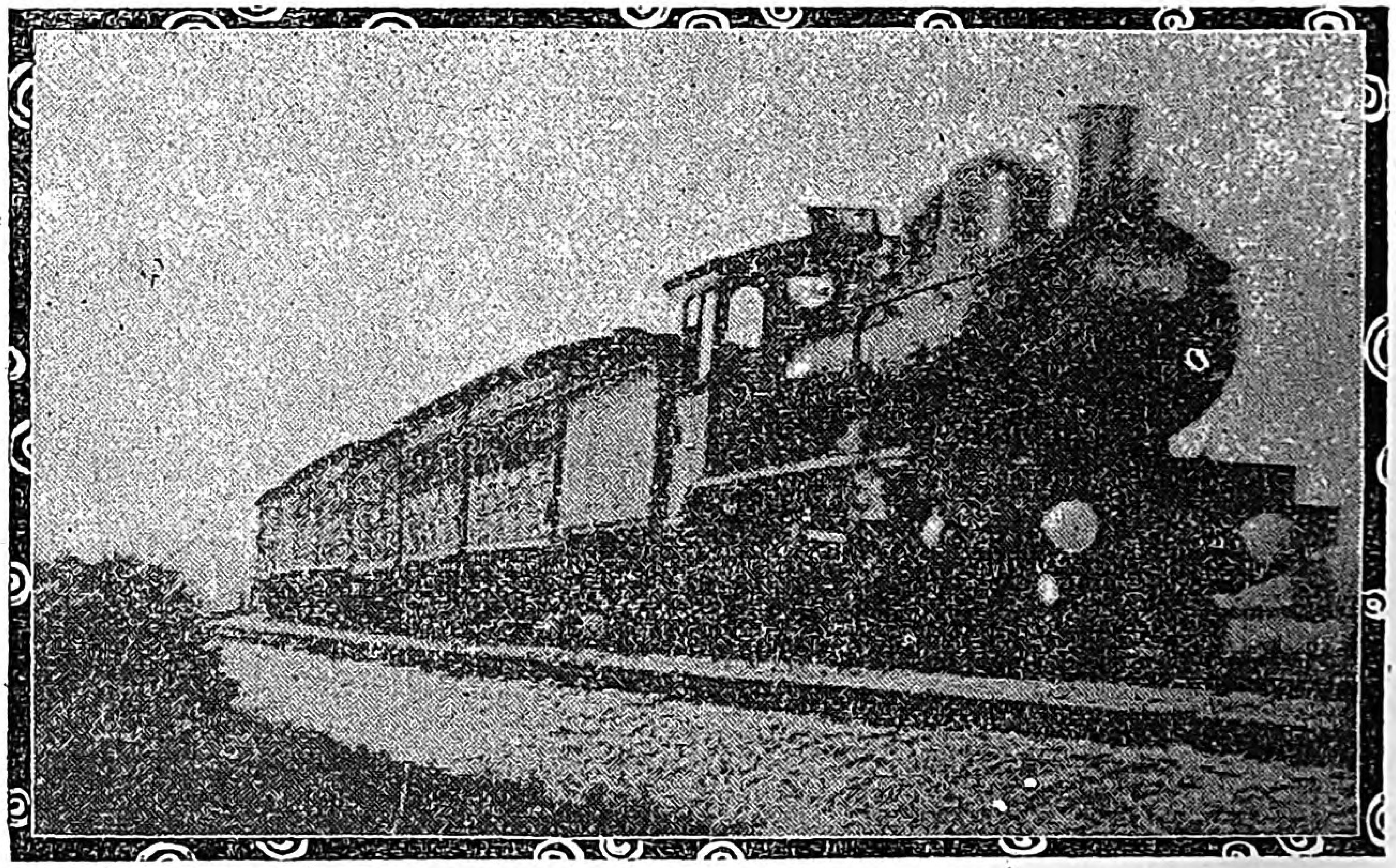
地方處女會の活動



滋賀縣蒲生郡岡山村處女會

靜岡縣田方郡田中村處女會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



處女の友　十二月號

ゆく年を追はず來る年を迎へん

『光陰は流水の如く歳月は人を待たず』などゝいふのは、老人の愚痴です。皆様は若い、私共も若い、年の暮れるとは新年の來る前振れで、何んともたとへようなく喜ばしい。働いた人にはゆく年に未練はない。

それにことしは勞働問題の起つた大に紀念すべき年です。忘年會なんぞ開いて、自分の年を忘れ、年甲斐もなく踊つたりして、ことしの大事の出來事を盃洗の水に流さうなんかはもつての外のこと。處女會婦人會は、紀念會か、さもなくば迎年會を開きなさい。そして來る年を迎へる準備をしなさい。思ひ出多き大正八年よ、早く逝け。のこる汽車の煙は追ふまい、見よ希望を載せて勢よく進み來る大正九年を！若き諸嬢よ、希望を以て新年を迎へよ。

田家の早梅

＝大正九年御勅題＝

明年の御歌會の御勅題は、『田家早梅』と承ります。田家は農家、早梅は早咲きの梅、冬の中から咲く梅の心を含んでゐるのださうです。冬の内から梅の咲くのは、伊豆、相模、上總、下總、駿河など海岸に面した溫い地方で、梅の花は皆樣も御承知の通り、氣品の高い我邦の名花で、寒風を犯して百花に魁する所は、何んともたとへようなく勇ましいものであります。しかもいふにいはれぬ溫かみと、のどかな氣分のするのはこの梅の花の特色であります。藁家の軒先にお媼さんが孫を相手に日向ぼくりなどしてゐます、霜どけの庭から湯氣がポーッと立ちのぼり、クー〳〵と鷄が餌を漁つてゐます、その軒先きに梅の老木があつて、二三輪の風情をみせてゐるところなど、殊にのどかで、平和であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

國際勞働會議と婦人勞働

□田中女史の評判

媾話談判はすみましたが、國際聯盟に關係して、世界の重な國々が、勞働者の爲に相談して、世界共通の規約をこしらへようといふことになり、その會議が亞米利加の首府華盛頓で開かれることゝなり、各國から政府資本家及勞働者の代表者が夫々亞米利加に參り、日本からは、政府側から鎌田榮吉氏、資本側から武藤山治氏、勞働者側から桝本宇平氏が選ばれて、去る十月十一日に伏見丸で横濱を出帆したことは皆樣御承知の通りでありますが、こんどの會議には婦人の顧問も列席することになり、日本では田中孝子夫人外數名がその選に當りまして、大使と一所に出發し、もうあちらの會議に出て日本婦人勞働者の爲に大に氣焔を揚げて大變評判がよいさうです。

□物騷な世の中

武士の天下からお金持の天下となり、何でもお金持々々といつてお金のないものは、よし働いても見さげられたり、世の中に重んぜられなかつたりしましたが、こんどの戰爭で急に勞働者が勢力を得るようになり「世の中で何んといつても働く人ほど尊いものはない、小作人あつての地主である、職工あつての資本家である。社長は自動車に乘つて威張つてゐるが、あの金は全體誰が稼ぎ出したか」といふように、猝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

かに元氣づいて來まして、また其を黒幕になつて煽てる人があるものですから耐りませぬ。あつちこつちで同盟罷工が流行る。働き盛りの男子がサボタージユをやる。お上へ御奉公のお役人や敎員さへ、月給を上げてくれなければ役所や學校を休むがよいか、といふような工合になり、一方には爆烈彈が外務省の側で破裂したとか、前代議士が放火したとか、おまけに物價は上る一方、どうも世の中が物騷に變になつて來ました。戰爭には勝ちましたが、國の内がこんなに騷々しく、人の心が落ちつかないのは、誠に嘆はしいことです。

私共は資本家に敵對するでもなければ、勞働者に味方するでもない。もと味方も敵もない筈、四海同胞殊に日本國民として大和民族といふ同じ祖先の血潮の流れてゐる兄妹同志、資本家になつてゐる兄もゐれば、勞働者となつてゐる妹もゐる。互に讓り合ひ、睦み合ふとが理想なのです。只双方仲をよくすることの出來ない或る習慣や、ぢやまものや、その他があるならば、其を拂ひ退けたいだけです。其も喧嘩して拂ひ退け、そして仲直りするより、爭はずに、最初から手を握り合ふようにしたいと思ひます。其に先つて、こんどの國際勞働會議に相談する勞働規約の大體を申しませう。

□人格と賃銀と仕事

世界各國各々歴史と習慣とを異にしてゐますので、一樣には申されませぬが、然しどの國も段々進歩してゆき、野蠻な國は次第になくなり、あれば其を導いて開けたよい國として、地球上どの國へいつても、文明の利器を使用し、人間がたのしく氣樂に暮らしてゐるといふようにしたいといふのが、人を作つた神樣のお望みでせうと思ひます。仍で勞働者について、世界の重な國々が一樣に相談して、勞働者の困らぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

よう、不平を起さぬように、共通の約束を作らうといふのが、今度の會議の目的で、その主な條件は

一　勞働は貨物又は商品ではない

二　勞働者が勞働者同志の組合を設けてもよろしくすること

三　其の國で暮らせるだけの賃銀を取ることが出來るようにすること

四　一日勞働する時間を八時間とすること

五　日曜日を休みとすること

六　十四歳未滿のものは勞働をさせぬことにすること

七　男女共に賃銀を同じくすること

八　外國の勞働者を深切にとりなすこと

九　勞働者を保護監督する設備や機關を設けること

是が大體の規約の本であります。詳しくは將來時々誌上で說明することゝしますが、一口に言へば(一)勞働者の人格を認め(二)待遇をよくし(三)身體をいためぬように仕事を樂にするといふことになると思へば問題はありません。

□工女よお手本となれ

人間を貨物と思ふ人はありますまいが、昔は奴隷といつて、たふとい人の子を犬や猫のようにこき使つて、その血と汗とでもうけたお金で贅澤をしてゐた人がありました。是からは、人はみな平等、貴きも賤しきもない。働くまじめな心の正しい人は皆貴人です。然し富むものと、貧しいものとは、自然と生じま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

す、けれども人としてみるときは、一樣です。富めるものが貴く、貧しいものが賤しい道理がありませぬ働いて貧しい人は却つて貴いかもしれません。其で是からふ人を使うといふには、賃銀のみで使ふことは正しくないことです。人格を信じ、人格を尊重して、共に仕事をするといふ考へがなくてはいけません。

其から骨の折れすぎる仕事は誰も嫌ですから、お互に助け合つて樂にし合ふこと、是も當然のことであります。八時間勞働が正しいか、九時間がよいか、その邊のことは、今猝かに申されませぬが、夜寢ずに仕事することは、あまり樂ではありますまい。是は資本家がよい工風をして下さることゝ信じます。其から賃銀ですが、是も夫婦に子供二三人位は、どうにか生活してゆかれる丈にすることが、正しいことゝ思ひます。尤も人は美しいもの、旨いもの、よい品を順々に望んでゆきます。十人の家族で六十圓で餘る人もあれば、夫婦暮しで二百圓入る人もありませう。磯桶一つの結婚もあれば、支度に卅萬圓かゝつたといふお金持のある世の中ですから、一樣に言へませぬが、少くとも、人間らしい暮らしの出來る程度の賃銀は取るようにしたいと思ふ。さればとて、勞働者が五割増せの、十割増せのといつて噪ぎ、會社なり工場なりをつぶしてしまつては、結局兩仆れとなつてしまひます、此處が資本家と勞働者との人格を以てよく相談し合ひ、譲り合ふようにせねばなりませぬ。

日本の工業は、紡績製絲など多く女子を使用してゐますので、勞働問題と女子とは、切つても切れぬ關係があります。長野縣だけでも十萬人の女工さんが居ります。日本全體で八十萬人、是等の人々は他日妻となり母となるたふとい方々ですから、自分で自分を愛し守つて身體を大事にし、品行をつゝしむのは固より、資本家は女工さんに同情し、敬意を拂つて、人格を認め、賃銀を高く、仕事を樂にして、工場をたのしい世界にするようにしなければなりませぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

月下氷人としての余が箴言

附乃木夫妻と自分

男爵　石黒忠悳

十一月十一日、雨。午前八時私は揚場町の男爵邸をお訪ねしました。執事の方に名刺を差上げると『どうぞこちらへ』と請ぜられたのが廣い西洋間、もう其處には男爵閣下が安樂椅子に倚られて私を待つて居て下さいました。森閑とせる室内にはいろ／＼な菊が咲いて、卓上には可愛い雛菊が投げ挿され、ピアノの上の油繪から眼を轉ずると、飾棚には由緒のあるらしい兜その最上段には故乃木將軍の胸像が置かれてありました。話は乃木將軍より其の糸口が解れて行きました。

乃木夫人の媒妁

俺は、何ぢや、これまでに媒妁といふものを五十も行つて居る。乃木の夫人も俺が媒妁を行つた。その時乃木と約束をしたのぢやが、こりやお互に媒介のしつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

こを行らう。俺の伜の嫁はお前に賴む、お前が伜の嫁は俺が世話をするといふので、俺がまづ乃木の夫人を世話したのだが、嫁を世話するのはい丶が、それには一つ媒妁人として是非謂つて置かんならんことがある。私は何の媒妁にもそれを謂つて、それが承知ならお世話するといふことに極めて居る。まあ、何んだ、これは私——石黑——が一つの主義ぢや。それに絕對服從せんのなら世話はせんといふ、まあ、乃木にも話したところ、それはもうちやんと服從するといふことで…………

箴言三則

何ぢや、その約定といふものは三つある。一つは男の方へので、嫁を貰ふはい丶が、男は將來出世をする。政治家なら大臣まで、軍人なら將軍まで、ところで夫が出世をすれば妻も同時に出世をせんけりやならん。現在は平の人間でも、後には公爵になるかも知れん、すれば、女の方も何々公爵夫人といふことになるが、さうなつても、現在の夫人でい丶か什うか。どんなに偉い者になつても、いま貰ふ女で滿足するといふ覺悟があるかどうか。これが無いといかん。

あとは女の方へぢやが、人間の將來は計り知れたことぢやない。現在は完美な男でも、癩病になれば手足が生姜のやうになるし、疱瘡に罹れば、顏に痘痕が出來る。さうなつてもい丶か。又、今日は財產があり名譽もあるが、一朝これが瓦解して、路傍に憐を求める乞食となるかも知れん。かういふ時にも其の夫に誠意を以て事くことが出來るかどうか。お互から、この決心を聞かない中は、媒妁はせんといふのが私の主義ぢや。

乃木の二令息

まあ、乃木の夫人は世間に傳へられた通り日本夫人の典型ぢや、俺の家內とは別懇の間柄で、其の昔約束の通り、伜達が嫁をお互に世話し合はうといふやうな話も仕合つて居つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ところがぢや、乃木の令息たちは二人共討死、俺の子供は幸と健全で大學も出て居る。俺は實は、二回程約束を果すために、乃木のところに出かけた。が、どうしても「伜の嫁を世話して呉れ」といふことが言ひ出せん（男爵聲潤う）乃木は夫妻とも子息を失したことを「國の爲めにお役に立つた」と謂つて喜ではゐるが、俺はとう〳〵默つたまゝ約束を破つてしまつた。

ところで其の事は後藤新平君に頼んで、さあ今度は乃木を招待することだが、これも俺は苦しかつた。よろこんで來てはくれたが、俺は實に忍びんかつた。

男爵は感慨に堪ぬもの丶如く、始終聲を飲んで居られた。私は話を他に轉じてお茶を戴く。お頼をすると喜んで左の一絕を揮毫して下さいました。（葉山生記）

＊＊

御陵松柏綠森々　乃木祠成感更深
誰憐老眼爲レ淚暗　慕レ君心又憶レ朋心

明治天皇梅花御製

＝田家早梅に因める＝

雪中早梅（明治十八年）

降り積る梢の雪をはらはせて
　今朝こそ見つれむめの初花

梅花先春（明治二十七年）

はる風もふくこゝちして新玉の
　としの初日ににほふ梅かな

田家煙（明治三十二年）

小山田のさとの煙もとしごしに
　立そふ世こそたのしかりけれ

新年梅（明治三十五年）

たちかへる年の朝日の梅の花
　かをり初たり雪間ながらに

寒月照梅花（明治四十四年）

照る月の光りはいまだ寒けれど
　春にかはらぬ梅が香ぞする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

農村の婦人へ

成女高等女學校長　宮田脩

彼此指圖を受くべき理由もないし、又自分等にしても別に什うの斯うのと言ふべき性質のものではないが、古人の所謂「小人罪無し璧を抱いて罪あり」で、玉を抱けば、よし小人でなくも其の身を害ふことが多いのである。折角蓄めた寶のために、却つて其の身を害ふやうでは、唯にその者一身の損失に止まらず、しいては國家の前途に對し甚だ憂ふべき事と謂はなければなりませぬ。

蓄めたお金は?

米價は騰る生糸は騰る、諸物價は遠慮なしにドンドン騰るばかり、需用者から謂へば物價の騰貴は生活を脅す原因にもなりますが、その供給者から謂へば寧ろ喜ぶべき現象と謂はなければなりません。最近、地方農村が莫迦に景氣がいゝといふのも、其の原因は確かにこの物價の騰貴に依ることと思はれます。兎に角この頃地方の人には随分お金が蓄つてゐます。お金は蓄つた、が今度はそれを如何使ふ、それが考慮すべき問題です。

勿論自分の稼いで蓄めたお金である。どんな鹽梅に費へばとてそれは自分の自由である。何にも他人から

女は着物へ

お金を消費ふことを、一口に悪いとは謂はれない。たとへば現在の必要に逼られたといふのではなく、たゞお金があるから買つておけといふ調子で買つたとし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ても、土地とか家具とか謂つたやうなものは、何にも惡い使ひ方ではない。ところが人情といふものは一種特別なもので、殊に婦人はすぐに身のまわりの修飾といふことに心が走る。婦人と着物、これはもう結ばれた緒で離れつこがない。「着物が揃はないので嫁入が出來ない」といふ言葉をよく聞きます。

まあお待ち下さい。着物を買ふ事や身のまわりを飾ることは、皆一概に惡いといふ意見ではございません。其の身相當の修飾をするといふことは、何等不都合のあるべきことでは御座いません。否、不都合どころか、それは人間として極めて必要の事柄です。萬物の靈長として、殊に婦人は、其の身のたしなみの上から、又悦樂の上から、流行の模樣を歡迎し、上等のものを撰ぶといふことは强ちに咎むべき事ではありません。が、併しこの問題は單に着物のこととして、葬むるべきことではありません。その着物の半面には可なり大きな問題が潜んでゐることと思はれます。それを私は憂へ且つ怖れるので御座いました。

土を離れて

土を離れて人は生き得ません、土こそ人間の生命でせう。その土に親しみ土に倚り、平和に、强健に、安全に生活し得るのが吾が農村の第一特色と謂はなければなりません。土に生くるの人が、その土を離れるの時、そこに人生の悲慘が産まれます。都會は方にこの悲慘の渦中にあるものと謂はなければなりません。

農村の婦人よ！　吾が親愛なる農村の婦人よ。郷等が着物に憧憬を持つその心の中には、確に都會といふものに憬れてゐるといふ心が芽生えてゐます。單に一枚の着物、唯一個の髮飾といふ問題ではありません。お金が無くてさへ什うにかして着物が着たい髮が飾りたいといふのである。お金の十分に出來た今日、郷等は果して如何なる考への下に生活しつゝあるか。「田舍は華美になつた」さういふ聲を隨所に聞く　私は、今後或ひは現在の好景氣に乘じて、國家の基礎たる農村が益々華奢に流れるといふことを恐れる。これ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

は餘事ではない、國家にとつても又讀者自身にとつても、須く沈思熟慮を要する問題だと考へられます。

都會の婦人

なる程都會の婦人は外見美しくも見える。姿も垢が拔け、言葉も滑らかである。すべてが選まれた者のみのやうである。地方婦人の羨望の的になるのは或ひは無理のないことかも知れない。が、それは都會といふもの丶內情を知らぬからの事である。明るい半面には必ず暗い半面がある。都會に於ける其の半面とは何にか、曰く疲勞、曰く虛弱、曰く不安、それらに加へて總てが極めて非衛生的である。かういふ中に朝夕を過す婦人は、たゞに贅澤からばかりではなく、必要上から其の身を飾るのである。必要とは何にか、外にも理由はたくさんにあらうけれど、其の中の重なるものとして、さう飾らなければ居られないといふのがまづ第一である。青ざめた顏、瘠せ衰へた姿、そのまゝには拋つてはおけない。どうしてもお化粧をしなければ居られない。僞ではございません、地方婦人の持つやうな、あの掬すべき自然美が、都會の人の何處にありませう。

電車、街頭、見受ける程の婦人は皆一樣に其の體格が衰へてゐる。地方の婦人と較べると眞く病身者のやうである。よし病的でなくとも、尠くも其の身體組織が害はれて居るのは事實です。

隣家の麥飯

都會に憬る丶地方の婦人は、その表面のみを見て其の裏面を觀るの眼がない。麥飯でも隣家の方が、お美味さうに思はれる。まして生れ乍ら虛榮心のあるところへ、都會婦人の裝飾を見たならば、その內面を觀やうとする眼が晦まされて了ふのは尤もである。が靜かに都會生活者の半面を覗ふてごらんなさい。東京は現時每年產婆、婦人科醫の產科醫が增えつゝありますこれらは實に都會婦人の病弱な身體を證明するものと謂はなければなりません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

分娩といふものは一體自然のはたらきでせう。隨分大危には相違ないが、決して病氣ではない筈です。昔の婦人は勿論、農村の婦人にもお産のために醫者を抱へたり、入院したりする者は一人だつてありはしません。それを都會の者が大騷を行るといふのは、決して贅澤どころの話ではなくて、眞にさうせざるを得ないのであります。即ち身體も精神も、もうすつかり弱りきつてゐるのでした。無理もありません、婦人のか弱い身體に、この强烈な刺戟、この穢れた空氣、その上人はみな齷齪としてゐます。運動が不足のことはいふまでもない。

ある學者は、都會の者だけが續いて三代結婚すると後繼者が無くなる——種が絶えると申して居ります。

田園の幸福

空氣明澄、人情醇樸、大空を仰ぎ大地を指すことの出來る田園は、人の子の住む處として殊に最適のものではないか。卿等を圍ぐる一切の自然は、すべてが「愛」すべてが「希望」ではないか。春に花咲き秋に實るそこに何等の不平なく、そこに何等の煩悶も無い筈である。農村は早く自覺せなければならぬ。殊に婦人は着物の憬れを捨てなければならぬ。遠美近醜、遠くから眺めるからこそ都會は美しいのである。「井の蛙と嗤はゞ嗤へ、花も散り込む月もさす。」はやくこの自覺を持たなければならぬ。

都會は都會に任かせておいて、まづ卿等は自己が故郷の改善を計らなければならぬ。生活の標準に決して都會をおいてはならぬ。財産は人を向上もさせるが時に人間を墮落もさせる。地方財政の豐かなる今日、特に如上の感を深くせざるを得ません。

宮田先生は成女學校長をして居られ尚婦人界の爲に永い間御力を御盡しの方ですが、處女會中央部の爲には殊に以前よりお力を添え下され、將來殊に各方面に於て本會をお助け下さることになりました、地方婦人と共に先生に御禮を申し上げませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

うき事の尚此の上に積れかし

山脇高等女學校長
處女會中央部理事　山脇房子

表面ばかり幾ら美しくても、裏面がそれに伴はない汚ないものであつたら、其の物の値打はありませぬ。外面ばかり善い事をして居るやうに見せかけても、心の奥に汚ない惡い事を考へて居るやうでは、何にもなりませぬ。さういふ人を虚僞といひ、僞善と申します

昔の道德は、普通の人に到底出來ないやうなむづかしい事をやかましく說きました爲め、心の奥から其の通り立派に行ふ人が少なく、兎角僞善になり虚僞になる弊がありましたが、其の反動から近頃は、僞善はいけない、虚僞はいけない、天眞爛漫に、痛ければ痛いといひ、辛ければ辛いといふが可いといふ事になり、其の結果今度は、自然のまま、有の儘、修養も努力もする必要はないかのやうな誤解が出來て參りました。

○

申すまでもなく、僞善や虚僞は惡い事に相違ありません。けれども、僞りは惡いからといつて、裏面にまで公然惡い事をするやうになつては、世の中は一層惡くなるばかりでございます。私共は、僞善を排斥すると同時に、表面の惡を一層排斥致さねばなりませぬ。そしてここに注意しなければなりません事は、忍耐といふ事が僞善でも虚僞でもないといふ事でございます

○

雪や霜を凌いで咲き、清い香を放つて居る梅の花、あの梅が、寒いからといつていぢけるやうな事で、春の魁をすることが出來ませうか。濱邊に立つて居る大きな松の樹、あの松が、吹き荒ぶ汐風に負けてしま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ふやうな弱い事で、千歳の緑を誇ることが出來ませうか。人間でも同じ事でございます。つらい、悲しい、泣きたいやうな目に會つても、それに負けないで、益々氣を練り、心を鍛へ「憂き事の尚この上に積れかし限りある身の力ためさん」といふほどの覺悟を以て、耐へ忍んでいつてこそ、遂には普通の人に出來ないやうな大きな事業も出來、最後には目的を達して幸福が得られるのです。

○

近頃の若い人は、親より物識りたといふ心を有つて居りますし、親の方でも又、殊に母親は、或る年齢に達した子に對しては、あまり遠慮をし過ぎて、子のいふなりに許して置く傾きがあります爲め、何時の間にか我儘になり、不從順になり、そして物事に對して我慢が出來ず、お嫁入しても、夫や舅姑に對して不服を唱へ、家庭の平和が得られないで、お互に不愉快に暮らす人が多いやうに存じますが、つまり是は、忍耐といふ事についての訓練修養が足りない爲めであります

○

古語に『忍耐は成功の母なり』とか『艱難汝を玉にす』とかいふのがありますが、是は今日でも眞理であります。忍耐は、目前に於ては一寸損のやうに見えますけれども、最後にはそれが大きな德になります。老後に於て幸福な境涯に入る人は、男でも女でも、皆若い時に忍耐した人であります。皆さんの御存じの人に就て考へて御覽になつても、大抵お分りでせう。

○

所で此の忍耐といふものは、サア今日からさうしようと思つても、急に出來るものでありません。每日々々の、一寸した不平、一寸した悲しみ、さういふ事で修養して行かなければ、眞個に忍耐の人になる事は出來ません。どうぞ皆さん、忍耐によつて立派な人格をお練りになり、目前の小さい快樂よりも、末の大きな幸福をお求めになるやうになさいませ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

若くなる藥

中央部理事　天野藤男

回老人と娘のちがひ

ことしも最早のこり少くなりましたが、皆樣は、老人とちがつて、年の暮れるのが格別悲しくもなく、さびしくもない、否々却つて樂しく、愉快であるのです。老人は年を老るほど皺がより、腰が曲りますが、少女は年をとるほど背は伸び、身體はふとり髮は長くなり、色つやも出て來ます。是から十分に伸びて蕾を開き、實を結ばうといふのが處女の姿で、是から段々ちゞまつて、小さくなり、衰へるといふのが老人の俤です。

草木ならば、年を越えて、春風にあへば若々しい芽をもたげ、きれいに花も咲きます。人間の春夏秋冬は二度とめぐつて來ません。老人が靜かにゆく末を考へて、ものさびしく思はれるのは、道理であります。皆樣は我が樂しさにひき比べて、ゆく末の短い老人を同情しなければなりませぬ。

回娘はお婆さんの卵

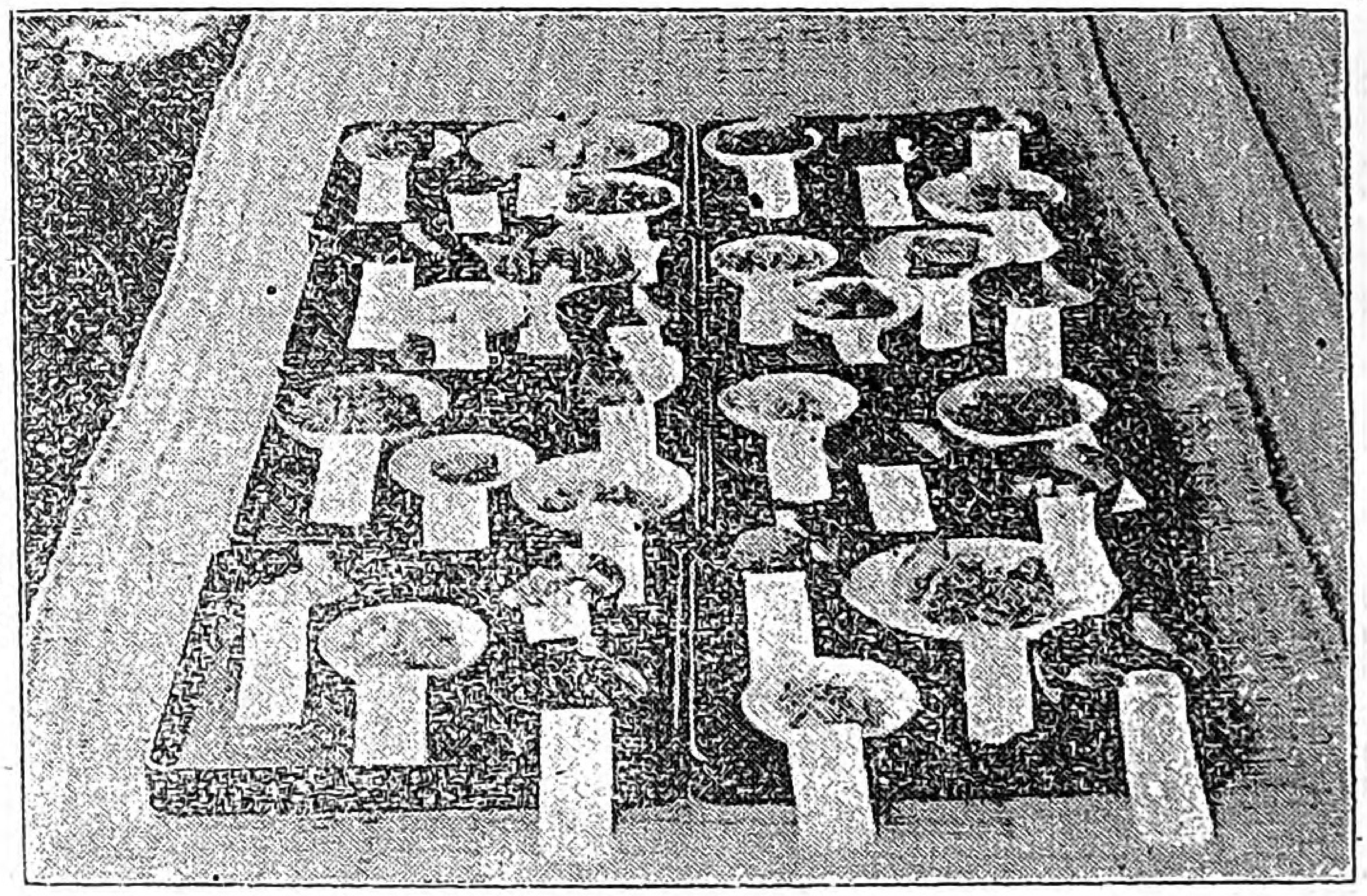
然しよく考へてみますと、お婆さんももとから皺がよつてゐたのではありません、お爺さんも若い時には、黑い髮の毛であつたのです。時の力です、時の力にはどうすることも出來ません。秋が來れば、木の葉も黃ばむように、元氣な青年も、中年となると小皺がより、老境に入るとまつ白に雪をいたゞきます。

全く老人も青年も、娘も、お婆さんも、人に變りはないのです。只生れた時の早い遲いに依つて順々に老

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人となつてゆきます。即ち、今のお媼さんは昔の娘さん、今の青年はやがて老爺さん、皆様は、お媼さんの卵でお媼さんは娘の殻です。老人を憐む娘は、やがてお媼さんになつて、あとの娘から氣の毒に思はれます。

誰でも年は老りたくない、生きとし生けるものは、皆生を欲します。お前百まで、わしや九十九まで、共に白髪の生えるまでといふ目出度く意氣な歌もありますが、九十九まで生きたとて、是で十分と舌を噛み切つて死ぬお媼さんはありますまい、しかも人生七十は古來稀と申します、殊に是からの世渡りには骨が折れるので、若死が多い。殊に女は二十五歳前後に多く死ぬと申します。こう考へるとまことに、人の壽命は短いもの、露のいのちとはよく申しました。


神奈川縣津久井郡内鄉村處女會

處女會のお料理

然し皆様短いが故に尊いのです人間に死といふものがなかつたならば、さぞ愉快だらうとは以ての外、若し誰も彼も不老不死であつたならば、陸の上も、海の上も、人間で埋まり、擦れ違つて歩るかれず、食物が足りなくなつて、しまひには、人と人と食ひ合ふようになります。ほしいと思はれる頃、極樂に赴き、赤坊が身代りになつてあとから生れる、一方に七日があれば、一方に七夜がある、是で世の中はよいのです。

回少女より處女へ

皆様は來年とつて十八歳か、十九歳か、二十歳か、二十一か二か、何んにせよ花なら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ば蕾のころ、人一代の中一番たのしく、心も身體も共に成長し、發達し、若い血潮と華やかな希望とがみなしてゐる時です。少女より處女へ、處女より新妻にならうといふ、稻ならば朶み穗ともいふべき大事な秋です。前途に望みの多いほど、危險があり、ゆく先が華やかであるだけ、迷ひも誘惑もあります。老人は因循だとか、引つ込み思案だとかよく言ひますが、是は若い時に元氣よく向ふみずにやつた苦い經驗から得たことで、年老りとなると、誰しもこうなるものです。若い人は、若い元氣に老人の考へをつゝきませて、勢よく且つひかへめて進んでゆかねばなりませぬ。言葉を換へて言へば「考へはふけるべく、元氣は若々しかる」べきです。

女をみたらば、お若いといへば、きつと喜ばれるといつた人があります。然し年は若いが考へはふけてゐるといはれるに越したことはありません。殊に男子などは「お若い」と言はれるのは、耻です。顏は若々しく、考へはふけ、元氣がみち〳〵てゐるのが一番とふとくあります。

回皆様へのお歲暮

來ん年を迎へんとして、若々しくなつて居られる皆様ですが、お歲暮として、尙一層「若くなる藥」を御歲暮に上げやうと思ふ。其はお砂糖よりも、鮭よりも、鰹節よりも、皆様に喜ばれるとゝ信じます。然し、どんなよい機械でも使ひように依つて役に立ち方が少いと同じように、私の不老不死の藥もよく飲み込みませぬときゝめが薄うございます。さて年を老らずにいつも若くなつてゐる方法は、

第一には、心を平和にして、腹を立てぬこと、

第二には、自分はいつも若い、年を老らぬと信ずること、

第三には、自分は人を愛すると共に、自分は人に愛されてゐると感じて喜ぶこと、

第四には、常に快よく働くこと、

是が年を老らぬ藥でございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女會の通信

花嫁に紀念の指環を

熊本縣宇土郡戸馳村處女會長　一村實行

ことしの三月お寺で料理作法の實習大會を開いた、會員を十組に分け、持ちよりの材料でお馳走をこしらへ、郡長郡視學外村內有志を主賓として、處女の料理を配膳した。

野菜の種子は會より配付して處女には家庭に於て一坪以上の農園を設けしめてゐる、展覽會は每年一回補習學校と連絡して裁縫、書方、手工さては廢物利用品などを陳列する。

○

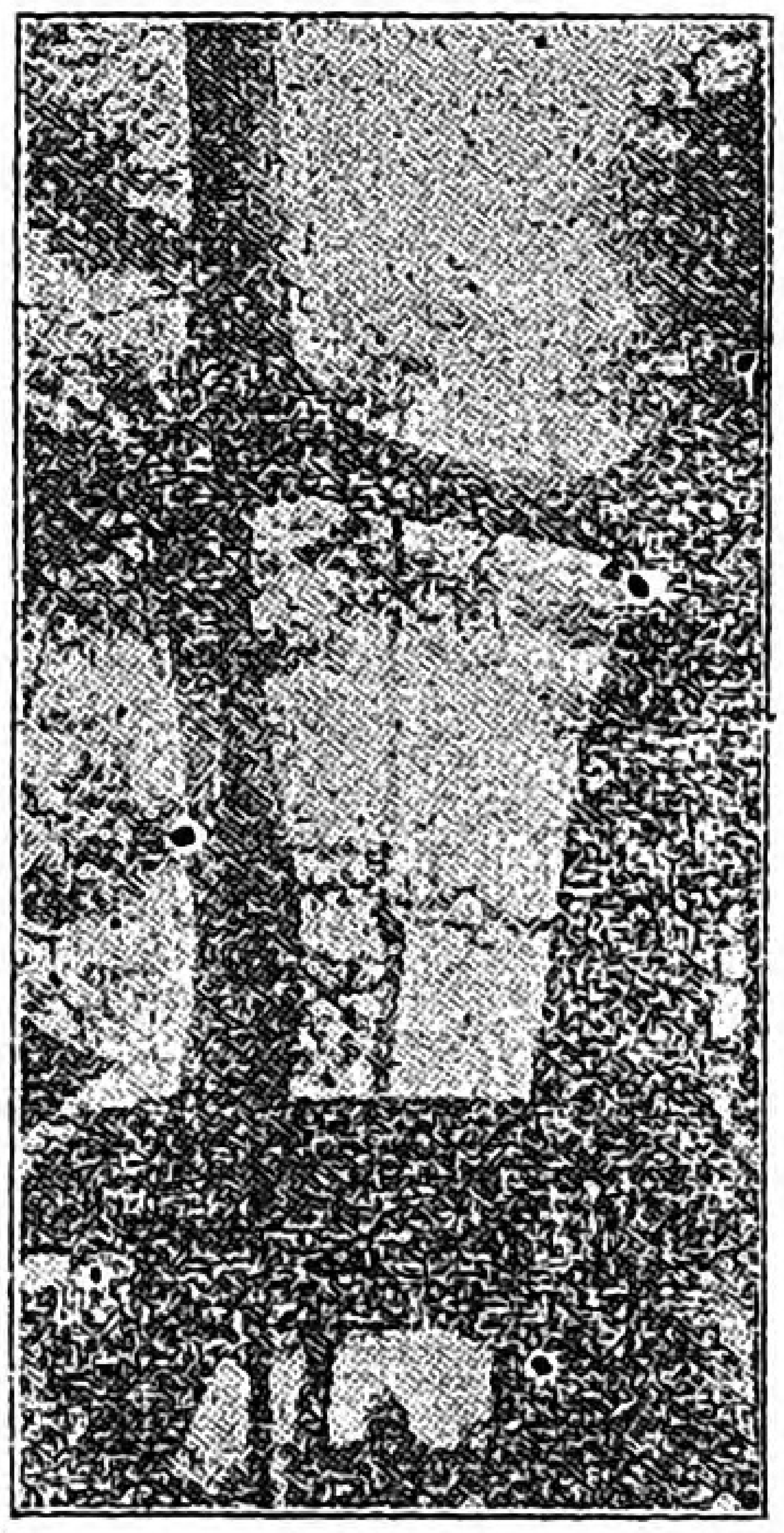
社會見學は女子の見聞を弘める爲に時々行ひ、共同貯金によつて勤勞の風を興し、虛榮心の撲滅に力めてゐる。

青年會とお仲間の運動會や講習會を開いてゐることも特色と思ふが、お嫁入する會員には記念として指環を贈ることにしてゐる、是が一番の本會の誇である。

私の村は四面海を以て圍まれてゐる小さな島であるが、是からはどうしても婦人の力を高めねばならぬといふところから、青年會に倣つて處女會を作ることにした。

（山縣一子氏寄）

連理松

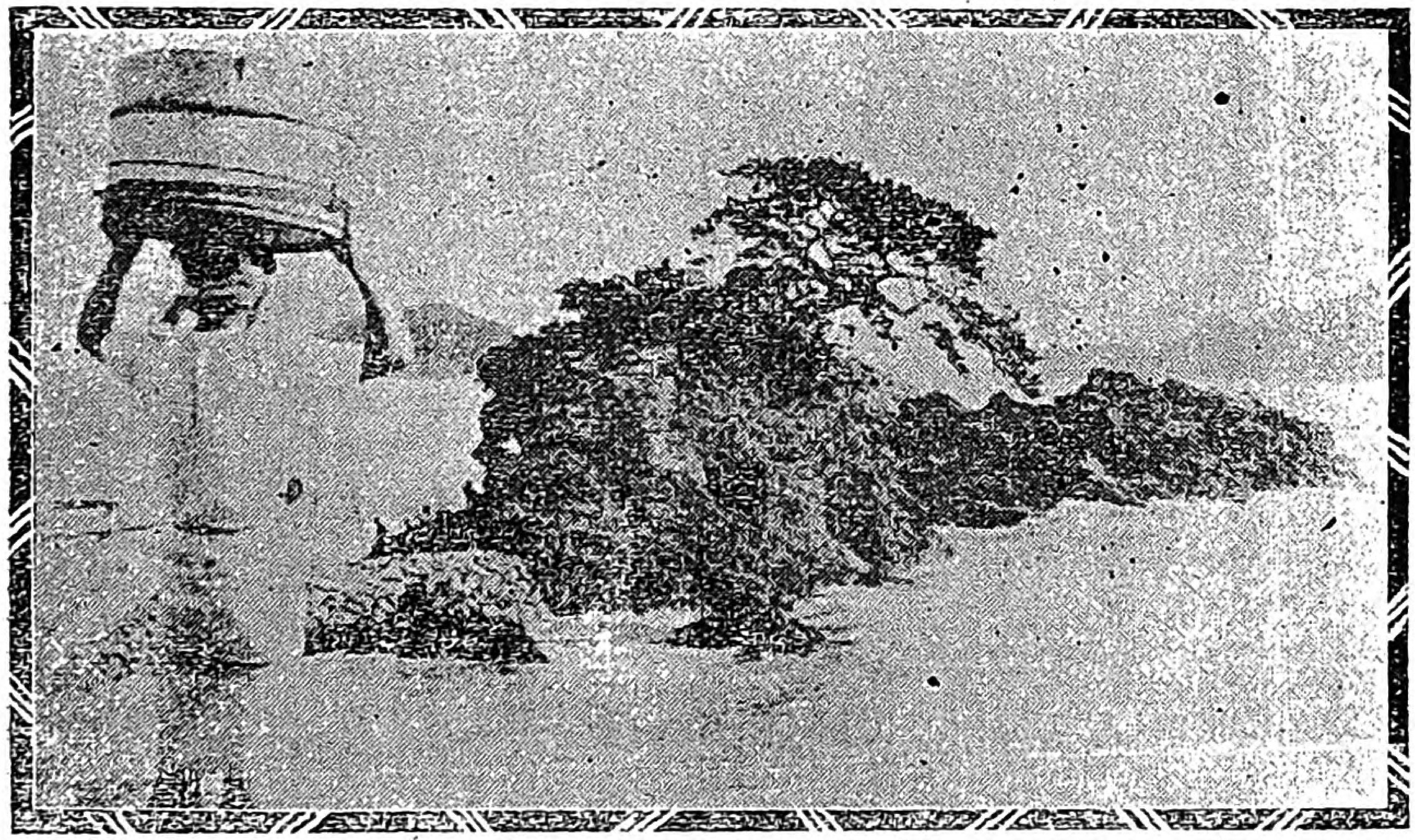


石見高津の名物です夫婦松です。

事業としては家庭衛生、婦人衛生、救急法看護法さては勸業教育の鼓吹、裁縫料理及作法の講習講話は、お寺又は學校に開かれ、いつも盛會である。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



荅志島の海女

氏神々前でお別れの式

＝三重縣の處女會と出稼の連絡＝

□四月から十一月まで

三重縣の漁村の蜑の働きぶりは、前々號の本誌に紹介しましたが、尚此に特に皆樣は固より、處女會婦人會の幹部又は工場の方にも讀んでいたゞきたいことは、漁村の出稼婦人と、出稼先との連絡がよくついてゐるといふことであります。

蜑の仕事は四月からせい〴〵十一月頃までなので、その他の閑な時又は忙しい時でも、自分の村の蜑の作業に人手が餘る時には他の土地に出稼ぎすることになつてゐます。出稼の勇ましい尊いことは皆樣のよく御承知の通り。

□神前のお暇乞ひ

出稼の種類としては、お手の物の蜑婦になるのを第一として、次はお茶つみ女、次は養蠶婦近年は工場にゆくものが、殖えて來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ました。場所は遠いのは、朝鮮、仙臺、駿河、近くでは伊勢、名古屋、大阪あたりが多く、一人や二人でなく、何十人、多いときは數百人隊を組んで堂々と出發します。其の出發に特色があります。

まづ鎮守様に集つてお別れの式を行ひます。出稼娘は勿論のこと、父兄も立ち會ひ、處女會長(婦人會長)も村長、學務委員も列席します。

すると、神官が恭しく進み出で、祭詞をさゝげ、出稼婦女子の幸福を神に祈ります。婦女子は祓をすませて後、各自に神前に出で

是から私共はお村の爲に、家の爲に遠く出稼に參ります、この上は村のお恩を身に刻み、一心につとめ勵みますほどに、神様のお助けによりまして、無事につとめをすませ、歸るとの出來ますように、謹んで祈り奉ります

恭しく敬禮を致します。

□揃ひの手拭で

其から會長は一堂にお別れの挨拶に加へて、出稼中の心得殊に行を正しくして、人に笑はれぬよう、村の名譽を輝かせて來るように、こん〳〵と諭します。

愈々出發となりますと、その出稼團體の中より年長者の監督を擇んで、途中は固より、出稼中の萬般の世話をなさしめます外、別にしつかりした人がついて出稼地に送つてゆきます。出稼婦人團は揃ひの手拭、揃ひの處女手牒を携へ、めい〳〵に勵ませ合ひ戒め合つて、少しの間違ひのないようにします。

目的地につきますと、引卒者は、よく農場長、大地主漁業組合長、又は工場長に面會しまして、村の婦人のことをよく頼み、尚監督の婦人を引き合せて若し何か不都合のことがあつたらこの婦人に知らせていたゞきたいと頼みます。この監督と村とはよく連絡がついてゐますので、何十人居ても、出稼女の様子は手にとるように知れます。

引卒者はよく頼んで歸りますが、近い所では、一年に二度も三度も工場なり農場を訪れて、婦人の働き振

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を視察します。そして村の樣子をよく話し、處女會員の消息をも知らせますので、出稼女は安心もすれば、勵みも出ます。いろ〳〵の用事や、傳言は處女會長に賴んですることになつてゐます。兩親への送金の用も會長が致します。

□無事歸郷の奉告式

出稼は短いのは二三ヶ月、長いのは半年、一年、然し經つてみると、早いものです。いよ〳〵歸る日が近くと、婦人たちは胸を跳らせます。お金もたまり、身體も丈夫で、珍らしい景色をみて、何一つ失敗もない
仍で郷里に歸りますと、今度はお宮に集つて無事歸郷の奉告祭を致します。父兄も來賓も大勢來ます、神官は無事に歸りましたお禮を言上します。處女たちは神前にぬかづき、

『神樣の御かげによりまして、無事につとめを了へて歸ることが出來ました、是からは村の爲に働きます』

此處で監督の報告、會長の挨拶、來賓の祝辭もあつて、父兄に伴れられて家に歸り、其の夜は一家擧つて話し暮らし、尚つゞいて處女會の大會を開き、出稼の模樣其他を報告することになつてゐます。是は、後からゆく女の爲に、よい手引となります。

二三年前に、朝鮮へ出稼ぎにゆきました一隊百人の中の一人が、朝鮮で途ならぬことをしまして、身重になつて歸りました。すると、そのあくる日處女會の相談會を開き、會の不名譽だといふので、すぐ除名處分を行つたと申します。この一事を以てしても、處女會の勢力があることがわかります。從來出稼女といへば紊らなことをするやうな風に考へ、又土地の靑年も出稼女を誘惑したりしたものですが、女の方がしつかりとすれば、男も紊らなことはしません。

尚或る村の處女會は、申し合せて、處女會員はどんなことがあつても、遊廓は固より、料理屋、飲食店へは女中奉公をしないことにしてゐます。なんとたのもしいことではありませんか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

活動寫眞

田舍娘の『お房』さん

牧野省三氏令孃富枝孃

十一月三十日から開かれる生活改善展覽會に試演する活動寫眞「都にあこがれて」の主人公お房さんの家出姿であります。お房さんは二十一、靜岡の在の農家の娘ですが、家庭の不和とあこがれ心と一所に

なつて家出しましたが、さてこのお房さんになる役者がありません。女優はたくさん居りますが、自然に遠ざかります。どうしても娘でなければほんとうでない、困つてゐますと、京都の牧野省三氏の娘さん＝富枝さん＝が『それでは私がお房になりませう』と進んでお父さまに申し出られました。然し富枝さんはお嫁り前『いかに爲になる活動寫眞だといつても、役者になるのはどうでせう。若しや緣談でも』と親類の人は心配されましたが『お父さんお母さんの爲に盡くして其でいやになるような人の所へは嫁きたくない』といつてとう〳〵一番むづかしい家出娘となつてくれました。此所は今東京驛へついたところです。前の器械は活動寫眞機です。尚お妹さんの勝子さん(十九)靜子さん(十六)も今度の活動寫眞に出てくだすつたのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女哀話

都にあこがれて（其の三）

白雲生作

四

口入屋から引き合はされたのは、〇〇子爵邸で、そこの小間使とならうといふのが、おきみの願ひであつた。あこがれの望みをいだいて子爵邸を訪れたおきみが、しほ〳〵と門前から出て來たのは、もの丶二三分間も經つか經たぬ間であつた。

空腹と不安と恐怖とでおきみの顏は青白かつた。あたりはあか〳〵と電燈や瓦斯燈が輝いて、都大路の夕暮の人通りは一入賑はしく、途ゆく人が皆自分を眺めてゐる樣に思はれて、おきみは穴あらば身を隱したいほど、身を小さくしながら、とぼ〳〵とあるいた。

と、橫合から外套着て鳥打帽を目深かに冠つた紳士體の背の高い男が出て來て、おきみをチラとみつめて、

『お前さんどうなすつた、心配さうな樣子だが。』

おきみはこうした場合に、だれにもせよ深切に話しかけられるのが、救ひの神のように思はれた。ありのま丶を物語つた。紳士は煙草の吹殼を捨てゴム草履で擦りもみながら一部一什を同情しながら聞き取つて、

『其は可愛さうな、本所も廣くて遠い、それに番地がわからなければ、捜しあてることはむづかしいね、どうです、儂がひとい丶つとめ口を世話してやらうが……』

おきみにとつてこの一言はどんなに心强くたより深く響いてたことであらう。やがて心持ち平靜に歸つたおきみは、件の紳士の後に跟いて夕暮の街をあちこち曲つて步き廻つた。

紳士は深切におきみを案內して、とき〳〵出京の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

動機や彼女の身の上などを聞いた。其男が初生の田舍娘のおきみには、善人か惡漢か見分けることが出來なかつたのは、無理もないことである。

◙

『儂は一寸よそに廻らねばならんから、此處で今夜は泊る事にした。疲れてゐるだらうからよく眠るがよい、むさぐるしい所だか心配なく、明日は儂も來るから。』と案內された家は、狹い路次を入つた奥まつた汚い家で、この家が紳士とどういふ關係をもつてゐるか、主人は何をするのか、どこにゐるのか、其もわからなかつた。然し表をばピタと締めて出ていつた上に、今此を遁げ出したとて、どこへゆこうのあてもない、渡る世間に鬼はないものとおきみはまづ〳〵心を落ち着けて柱に倚りかゝつて抱へた包みを前に措いた。電燈は欄間にうす暗く灯つて、となり座敷には誰かゐるらしい。火鉢が置いて、茶箪笥も見える。酉の市の熊手が粗末な天井から手を伸べて、其には蜘蛛の巣がかゝつてゐる。唐紙は破れ、障子の棧も曲つて、そこらの造作がいかにもお粗末である。

一體どういふ家であらう、あの人はなんでせうと流石のおきみも腑に落ちかねた。邊はシンとして日も全く暮れたらしい。おきみは包を抱へたまゝ打ち伏しになつて是からのことを考へ樣としたが、夜明けからの疲れが一時に催して「ついうと〳〵と睡つてしまつた。

◙

ふと眼をさまして、自分はうたゝねしてゐると氣がついたおきみは、落ちつかぬ樣子をして、あたりを見廻した。夜が更けて、寒さが身に泌みた。

と、となりの部屋に人のうごめきがして、時々深い溜息も聞える。おきみは耳を唐紙の方へよせて敧てると若い女のすゝり泣きが、かすかに洩れた。

おきみはをどろいたが、氣を落ちつけて、そこの唐紙のすきから中を覗いた。覗いてみると、自分位な年恰好の娘が煎餅蒲團につゝまつて、うつ向きになつたまゝ悶え苦んでゐる。その樣子が氣の毒でもあれば、恐ろしくもあり、何の爲に、どうして此處にゐるので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あらうと考へると、此の家がます〳〵怪しく思はれておきみの胸は早鐘をつき始めた。

『あゝあゝ』と隣りの女のすゝり泣く聲が強く洩れるようになつた。おきみは耐らなくなつて、唐紙の外から『もし〳〵』と小さな聲で呼んだ。

呼ばれた女はおどろいて、うつ伏したまゝ顔をもたげて聲のする方をみた。青白い上におどろきを含んだその女の顔は物凄かつた。

お房はなまじい呼んでおどろかしたことをすまぬことに思ひ、いつそ側にいつて譯を聞きもし、話しもしようと思ひ切つて襖紙をあけて這ふようにして中に入つた、女はおどろいて蒲團の上に座つてしまつたが、一目みて初生な田舎娘らしいお房の樣子に若しや『自分のやうにかどわかされた田舎娘ぢやなからうか』と稻妻のように感じたので、吻と安心すると共に却つて思ひやりの心が起つて自分のことは忘れ、

『もし〳〵あんたはどうしてこんな所に』

と聞いた。お房も『もし〳〵あなたこゝはどこでございます、あなたはどうしたのでございます』

▣

聞けばその女はお房といつて仙臺の在の生れ、小さい時から邪慳な繼母に育てられて、氣苦勞は絶えず、お房の胸にはいつも暗い陰がさしてゐた。所が東京にゐる友だちから來る華やかな便りにあこがれて、ある夜その友をたよつて家出し、上野驛へつくと深切さうな車夫が來て『よいつとめ口があるから』とすゝめられるがまゝにその人力車に乘つた、そして案内された家が此處で、もう五日ばかりになるがどこへも世話はおろか、所持金は奪はれ、その上に猥らなことを强ひられて、食べ物も碌に與へられず、寧そ舌でも嚙み切つて死なうかと思ひ惱んでゐるところであつた。

お房の身の上話しを聞いてゐたおきみは、さては此家は怪しの家と身を顫はせながら『實は私も』と家出の一部始終を打明けたので、悲しい中にも百萬の味方を得たように喜び合ひ、しばらくはしつかと抱き合つて泣いた。

（みなさんに御斷り。活動寫眞では靜岡の家出女がお房となり、仙臺の娘がおきみになつてゐます、そのつもりで）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

少女の心と秋

都會病から誘惑から

「此頃田舍娘の上京が多い」

根本救濟は家庭の改良

秋は氣候の影響からどうも精神病の人が多いやうです、殊に十三四の少女は心身上の變化から、ともするとふら〳〵と氣が變になつて都戀しく田舍を飛び出して來る人があります、幸に家庭に父母が揃つてゐて

△暖味のある所ならよいのですけれど、繼母が居つたりすると、感じ易い少女の心はひどい打撃を受けますから、とんでもない氣持を唆られます。「かうして毎日この停車場に立つて居りますと多い日には五六人、その代りない日も隨分續きますが、兎に角田舍から出て來る

△若い女は尠くありません。」と救世軍の黑つぽい紫色の着物を着たお婆さんが上野驛の改札口から出てくる群集に絶えず眼を注ぎ乍ら語られました、之を聞いて更に不幸に陷つた若い娘さん達の集まつてゐる麻布廣尾町の婦人ホームを訪ねますと、廣い室で御裁縫をしたり、又洗濯物をお庭にほしたりしてゐる娘さん方の顏にも、輝しい

△秋の夕日が照つて居りました『只今は二十名程居りますが、何と云つても田舍から出て來た人々が多くて、殆ど不幸な結婚や、誘惑されたりして來る人々です、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私共の所に居ります人々の中にも、ぼろもあれば錦もあると云ふ風で、中々種々雜多でございます、新潟邊では未だ、

△舊式な考へを有つてゐる親達が多いと見えて、當人同志少しも心持のわからないのが、身代の都合上或は親類仲だから等とて嫁入りさせられるやうです、不幸な身の上になつた徑路は色々ありませうが、如何なる場合にも家庭が關係して居るのです、父が大酒飲みで家庭内に不和が絶えないとか、母が繼母でどうも冷くてしかたがない、とか或は

△貧しくて父母の膝に居るべき年から世に出て働き通して來た等と云ふ類です、それでこの救濟事業の根本はどうしても家庭の改良にあります』と婦人ホームの一員は語られました。(よみうり新聞より)

山雀が山がいやとて里へ出て、
　里でさされて山戀し

□家出女は十九か二十歳

大正七年の家出人調(警視廳)

試みに昨年度中の同廳管内の家出人を調べて見ると六千四十九名の多數に達してゐる、其の内譯は男が四千二百七十九名で女が千七百七十名で、月割にすると四月と九月が尤も多く六百五十二名を數えてゐる、次には三月の五百八十名に六月の五百七十五名である

△一番少數なのは十二月の三百十二名である、右につき當局者の意見を聞くと此の家出人の増減は主に氣候に關係して、四月と九月は兎角氣が浮き立つに反し十二月や一月は外が寒いので自然家に閉ち籠るやうな傾向から斯うした結果になるだらうと言つてゐる、次に

△年齢から見ると男は二十一歳と云ふ年が尤も多く三百二十名女は十八と十九歳といふ所謂妙齢の者に多く前者は百二十九名後者は百三十四名である、さうして此れ等の年頃の男女は兎角

△心の動搖し易い時代なのでちよつとした動機からも悲觀して家出するので、其直接原因は十中の八九は家庭の不和や痴情の結果である、因に昨年度の前記の家出人中發見者は九百三十三人であつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

男のお産

――産褥で骨と皮ばかりになる――

□夫は妻に感謝せよ

子は父母の子であるといつただけではよくわからぬであらうが、凡そ父母あつての子供であり、また親の恩愛は太陽の光の如く公平に光を與へてゐるのであるが、然しどちらが深い縁をもつてゐるかと言へば、其は母親であると考へねばならぬ。

「父となるは易しされど母となるは難し」といふようなことを聞いたが、愛の結晶とは言へ、十月の間我が子をお腹に宿すさへあるに、生命を賭してのお産の苦しみをすることは、女子としての天職とは言ひ條、夫は妻に感謝すべく、子供は先づ母親の勞に泣かねばならぬ。

あゝ母は命を賭けものにして、我等をこの世に生んで下すつた。

□夫の爲に産褥

『子を生む母は割りに合はぬが、性の分別のある以上致し方ない、せめては、夫に妻の苦痛の幾分を味はせて、父となる前に、妻に對して敬意を表し、其から父となるようにしたい』といふ地方が、日本ではないが中央伯西兒のイリヂアン、バカイリ族にある。この一族は妻がお産をすると臍の緒を切り、それからしばらく休養して、身體が元のようになると、夫の爲に産褥を設けるのである。

産褥はハンモックのようなもので、小屋の中に吊し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てある、此の中へ夫は寢て、子供を生みをとすまねをするのであるが、其がいかにも仰山で、産褥になる間は食べ物は木の根を少ししかたべられない、時とすると、食べ物は少しも與へられずに妻の生んだ子を抱いてゐなければならぬ。ほんとうの産婦はだん／＼元氣よくなり、反對に夫を介抱するのであるが、こうして八日の間チッとして寢てゐるのであるが、その間は用便の外は床を離れることが出來ない。

□夫の床の前で踊る

又他の部落では、もつと難義せねばならぬ所がある夫は五日間は一切ものを食べることが出來ない、六日目から四日間粉入の汁を呑むことだけ許される。其からだん／＼食へ物の分量はふえるが肉は數ヶ月の間禁せられてゐるので、産褥を離れるときには、夫は骨と皮ばかりになるさうである。

然しもつとむごい地方になると、産婦が來て、夫の身體に燒火箸をあてたり、血を出させたりして、苦しみ泣かせるのである『母となるには、これ位の苦しみをするものだ』といふことを、妻が夫にみせしめる土地の習慣であるから、夫は一言もない。

所が更に變つた地方になると、出産して四十日經つと『永い間御苦勞でした、さぞ苦しかつたでせふ』と夫が妻に御馳走をせねばならぬ所がある。其の日には妻は固より妻の親類が大勢來て夫の側に積んであるパンを片つ端からムシャ／＼喰べるのであるが、夫は指をくわへて見て居らねばならぬ。

其をすむと、お客は兎の齒を持つて來て、夫の全身に傷をつけ、其の傷口に、山椒六十粒乃至八十粒を混じて作つた濃いお粥の樣なものを膏藥にして塗りつける。その苦しさは、皆樣の想像に任せる、然し夫は決して泣き聲を立てることをしない。名譽ある父となるには、この位のことは我慢せねばならぬといふ土地の習はしである。

是がすむと、お客は更に盛大なるお産祝ひをした上に、夫の面前で、踊つたり、騒いだりするのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

仕合せな田舍の乙女

(一) やかましい八時間勞働

農村の人のよく働くといふことを形容して『晨に星をいたゞき、夕は月影を踏んで』とか『晨に殘月を仰ぎ、夕は入相の鐘に送られながら』とかよく申します。星樣は夜明けになると光が薄くなり、日が出ると消えます。月は夕となると東より現はれ、又、空にかゝれてゐる月も夜になると光を增します。入相の鐘は夕暮鳴るに定つたこと、つまり一日よく働くといふことになるのです。

夜明けが幾時か、星の出てゐる頃が幾時か、日の長い短いによつて定つてゐませぬが、まづ五時に入相が鳴り、又は月影が水田にうつる頃を六時とすると、朝から晩まで十二三時間の間は、お百姓が野に出で山に働くといふ譯になります。

この節八時間勞働といふことが、やかましくなりました。是は一日の働く時間を八時間にするといふことで、今度亞米利加で開かれる國際勞働會議の重な問題の一つになつてゐます。

してみると、農村は十二三時間も働き、尙家に歸つて女は臺所のこと

孝女白菊の歌

故落合直文作

其の一

阿蘇の山里秋ふけて
眺さびしきゆうまぐれ
いづこの寺の鐘ならん
諸行無常とつげわたる
折しもひとり門に出で
父を待つなる少女あり
年は十四の春あさく
色香ふくめるそのさまは
梅かさくらかわかれども
末たのもしく見えにけり
父は先つ日遊獵にいで
今なほおとづれなしとかや
軒に落ちくる木の葉にも
筧の水のひゞきにも
父やかへるとうたがはれ
夜な〳〵眠るひまもなし

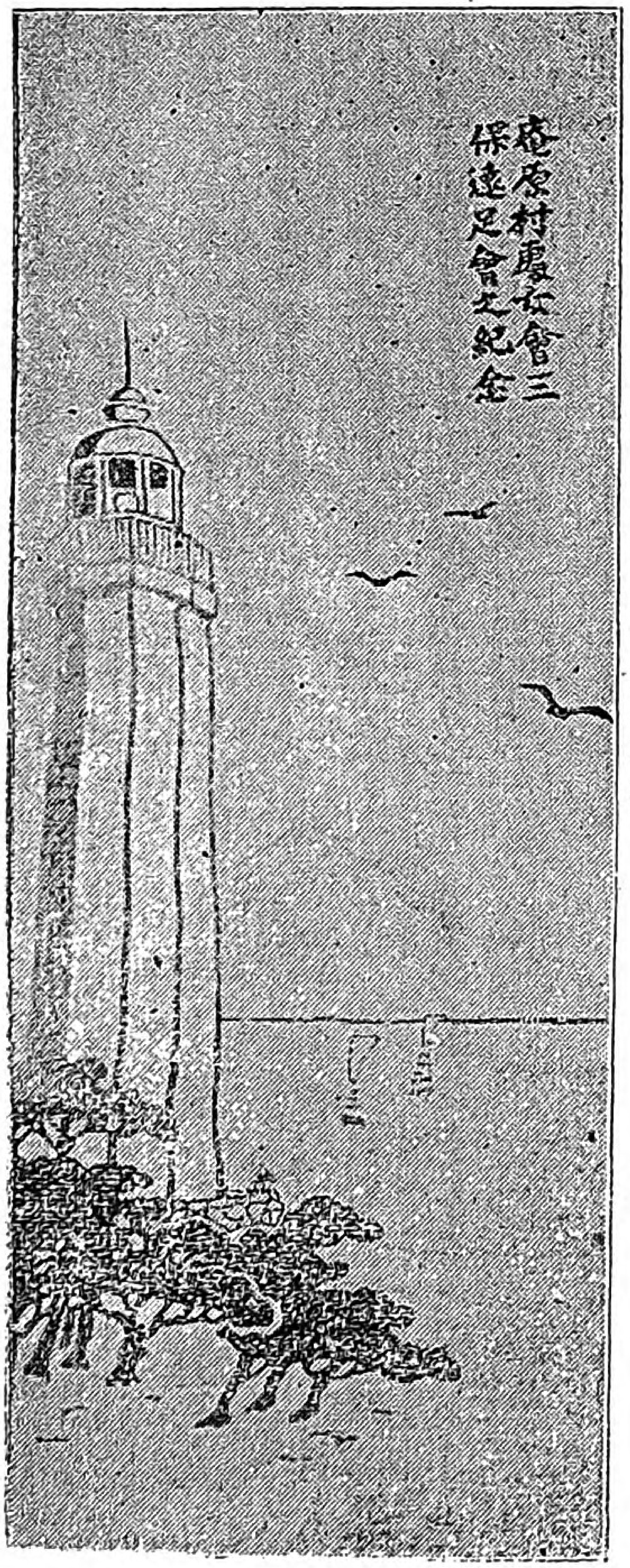
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

をなし、男は夜なべをするので、勞働がすぎる、身體にもよくないと思ふ人もありませう。

然し其は大へんな間違ひです。

(二) 高い山から谷底みれば

その前に、いくども繰り返すようですが、農業は勞働でなく(漁業も)農民は勞働者でないといふことです。今世間で噪いでゐます勞働者といふのは主もに(一)大きな建物の中に(二)機械や道具を使ひながら(三)資本家の雇傭をうけて働いてゐる人のことをいふのであります。地方の農民の働く舞臺は、會社でも工場でもない、大きな廣い、空氣の清い農場



靜岡縣庵原郡庵原村處女會遠足記念手拭

わきて雨ふるさ夜中は
　庭の芭蕉のおさしげく
なくなる虫のころごろに
　いさゝあはれをそへにけり
かゝるさびしき夜半なれば
　ひさりおもひにたへざらむ
管の小笠に杖さりて
　いでゆくさまぞあはれなる
八重の山路をわけゆけば
　雨はいよいよふりしきり
さらぬもしげき袖の露
　あはれいくたびしぼるらむ
にはかに空の雲はれて
　月のひかりはさしそへど
父をしたひてまよひゆく
　こゝろの闇にはかひぞなき
遠くかなたをながむれば
　さもし火ひさつぞほの見ゆる
いづこの里かわかれども
　それをしるべにたどりゆく
松杉あまたたちならび

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

です。工場は人が作り農場は造化の神が作りました。工場には機械が据えられてあります。人が機械を使ふのですが、人は又機械に支配されねばなりません。恐ろしい機關のひゞき、氣の小さなものは、魂の消えさうです。其處には、鳥も訪れません。蝶々も舞つて來ません。

所が、田舍の娘さんの働く農場はどうでせう、機械の音もなく、煙突の煙も來ず、あたりが靜かで落ちついて、草刈るお福さんの鎌の先に蝶々がもつれ飛んで來る、豆をまくお菊さんの姉さん冠りに、蜻蛉が飛んで來る、峯の松風は琴ひいて、谷川の流れは銀の鈴を振る。

　高い山から谷底みれば
　　瓜や茄子の花ざかり

とコッチではお房さんが歌へば、アッチで

　桔梗首振る芒は招く
　　秋の花野の面白や

お里さんがいゝ聲で――。

（三）若夫婦の共稼ぎ

腹時計と、仕事の都合とピッタリ合ふ頃になると、お辨當である。廣い〳〵天然の大食堂、若草のテーブルに小さなお櫃を出し、にはか拵へ

おやしき寺のそのうちに
讀經のこゑのきこゆるは
　いかなる人のおこなひか
籬もながば荒れくづれ
　庭には人のあともなく
月のかげのみさえさえて
　梢のあたり風ぞふく
門べにたちておさなへば
　かすかにいらふ聲すなり
待つまほどなく年わかき
　山僧ひとりいでて來ぬ
いかにあやしと思ひけむ
　しばし見てありこなたをば
少女はそれと知るよりも
　やがてまぢかくすゝみより
妾はあやしきものならず
　父をたづねてきつるなり
ゆくへを君のしりまさば
　敎へてよかしそのゆくへ
少女の姿をよく見れば
　にほへる花のかほばせに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の竈に枯草を炊きつける。煙がほの〴〵山を包んで、春ならば萌える蕨もむせつたからう。

『さあ食ふべいか』

若草の上にドッカと胡座かいて、足を投げ出して、松風に機嫌とられながら、麥のおまゝに澤庵漬けのお茶漬け、

麥のおまゝも働きくへば
　胸につかへず氣が樂な

時とすると、ちよろ〳〵流れ落ちる谷の清水を掬つてのんで、お湯に代へることもある。太郎がきれいな苺なんぞをとつて來て、食後の果物としやれることもある。

ごはんが了へると、一家團欒の茶話會、無盡のはなし、除隊話し、是が青年や娘同志になると、野の戀話も出よう。若し夫れ若夫婦の共稼ぎに至つては、話し聲は小さいが、その意氣そのたのしさ。工場の門を潜つて西へ東へ袂を別つ都會の共稼勞働とは少しちがふ。

(四) おみねさんの髪に

こうして夕方になるまで草を刈り、畑を耕し種子をまいてゐる中、太陽が西山に傾いて、夕燒雲が眞赤にたなびくと、ゴーン〳〵と遠くより

やなぎの髪のみだれたる
　この世のものにもあらぬなり
山僧こゝろやとけぬらむ
　小女をおくにさそひゆき
ぬしはいづこの誰なるか
　つばらにかたれ家も名も
をりしも風のふきすさび
　あたりのけしきものすごく
軒の梢にむさゝびの
　なくなる聲さへきこゆなり
小女はいよ〳〵たえがたく
　おつる涙をかきはらひ
妾はもとは熊本の
　ある武士のむすめなり
はじめは家も富みさかえ
　こゝろゆたかにありければ
月と花とに身をよせて
　たのしく世をばおくりにき
一とせいくさはじまりて
　青き千草も血にまみれ
ふきくる風はなまぐさく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

近くにひゞくお寺の入相の鐘、一日の安息をつげるあの鐘の音を聞いて野良の人は悠々と歸り支度をなし、野から山から夕餉の煙ほの〳〵と立ちあがる里へ！家へ！。

と空を仰ぐと今まで見えなかつた月が光つて星はチラ〳〵と輝き立つ鐘の音は止み、夕燒雲は次第に色あせて、あたりは夕の靄につゝまれる

『のうおはま、あしたもエヽお天氣ぢや』

と農場の主人茂平君がいへば、令夫人は、

『あゝ大丈夫だよ、あしたは新田畑の大根まきだ』

子供は唱歌を歌ふ、長い影が地を曳いて、春ならば田圃の蛙がころころと、秋は叢の蟲が合奏して送つてゐる。

『お歸りでか』

『よう刈れやしたな』

向ふからも、此方からも一所になる、新田のお雪さんの草刈籠には白百合が二輪三輪、歩むたびに得ならぬ香り、みれば髮にも一輪、さて風流なこと。おみねさんは、手にまつかな茱萸の枝を！

こうして家に歸つてお湯に入つて夜のごはんをたべて、たのしく團欒し、安らけき眠りにつくのであります。

砲のひゞきもたえまなし
親は子をよび子は親に
わかれ〳〵てあちこちに
にげゆくさまはあはれさも
うしさもいはむ悲しさも
この時母さもろともに
阿蘇のおくまでのがれしが
ながめられけり朝夕に
なれし故郷のその空を
人のことばに父上は
賊にくみしてましますと
きくよりいとゞ胸つぶれ
袖のひろまもあらざりき
あけくれ父を待つほどに
はやくも秋の風たちて
雲井の雁はかへれども
音づれだにもなかりけり
母はおもひに堪へかねて
やまひの床につきしより
日毎〳〵におもりゆき
つひにはかなく世を去りぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

（五）農民は大株主

これが一般の農村の人の暮らし方であります。勿論お天氣の具合や、畑のもの、山のもの丶出來榮えで、働く時間は一つでありませぬ。又家の内に居つて農業してゐる日も多いのです。養蠶も一つの農業です。

只私が此で考へて貰はねばならぬことは、之が勞働であるかどうかといふことです。私は勞働でないと思ふ。其は敎育であり、娯樂であり神への奉仕であり、祈りであると思ふのです。故に『都會では八時間勞働をやつてゐるが、私たちは朝から晩まで十三四時間も勞働してほんとにつまらぬ』なんぞと考へることは、全くやめねばなりません。

人が機械を發明しました。然し段々機械に使はれるようになりました丁度犬をつれて散歩する旦那さんが、犬が曳綱のまゝ驅け出したので、今度は旦那さんがひきづられるのに似てゐます。機械は文明の利器ですが、其は危險が伴ひ騷々しい音を出します。そして其を使つてゐる人は專心そのこゝに當り、ほかのことも考へられません。身體は疲れます、精神も疲れます。こういふ人たちを勞働者といふのです。勞は「つかれ」ともよみます。働いて勞れる人が勞働者です。尙人に傭はれてゐますとその利益は自分一人のものとすることは出來ません。自分は只賃銀を貰

父の生死もわかぬまに
　母さへかへらずなりぬれば
夢にゆめみしこゝちして
　おもへば今なほ身にぞしむ
いかにつれなきわが身ぞと
　思ひがこちてありつるに
神のたすけか去年の春
　父は家にぞかへり來し
母のうせぬときゝしより
　たゞになげきてありけるが
うき世のならひさなぐさめて
　この年月はすぐしたり
先づ遊獵にさいでしより
　待でごくらせごがへられば
またも心にたのみなく
　かゝろ山路にだづれきぬ
妾の氏は本田にて
　名は白菊さよびにけり
父は昭利母は竹
　兄は昭英その兄ぜ
おこなひあしく父上の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つて骨折りを資本家に賣つてゐるような形です。

所が農業、漁業はどうでせう。小作人とても、預つてゐる以上は、自分の土地、其處へ大根蒔こうが、人參蒔こうが勝手氣まゝ、丹精して澤山とれば、家の利益、大勢して分配も出來る、お父さんが資本家、皆さ

雪景色

寒けれぱ漁村の柳枯れにけり

んは大株主です。漁業もさうです。働いて澤山とれば家の利益となる、日傭稼は別ですが。

(六) 農業の短所

いかりにふれて家出しぬ
風のあしたも雨の夜も
しのばぬ時のなきものを
いづこの空にまよふらむ
今なほゆくへのわかぬなり
これをきくより山僧は
にはかに顔のけしきかへ
ものをも言はず墨染の
そでをしぼりて泣き居たり
とにかくにもこの寺に
一夜あかせとすゝめてし
この山僧のこゝろには
ふかき思ひのあるならむ
小女はそれと知りたるか
はた知らざるかわかねども
さすがに否ともいなみかね
その夜はそこにかりねせり
ぬる間ほどなく戸をあけて
あやしく父ぞ入りきたる
まくらべ近くさしよりて
聲もあはれに涙ぐみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

又よく人は農業は單調だと申しますが、この位複雜で變化があり、興味があり、神聖なものはありませぬ。お役人なんぞうす暗い部屋で机に倚りかゝつて法律文をひつくり返し、帳簿をかゝえてそろばん彈いて、朝は八時から夜の四時まで縛られて仕事してゐますが、其こそ單調なものです。お百姓は勝手のときに山にゆき、野にゆき、氣が向けば月が出るまで働くし、雨がふると家へ歸る、天氣そのものが單調でない。のみならず、皆樣の蒔いた大根や人參が生命をもつてゐるから、其を育てゝゆくことが、一つの敎育で、複雜な仕事です。

幾度もいふことですが、家内中一つ仕事が出來るといふことも農業の誇です。自由であぶなげがなく、身體の爲によく、氣樂で、長命が出來てこんな尊い業はないのです。勞働でなくして、娯樂であり、宗敎であり又敎育であるのです。よつく之を胸に刻んで、徒らに都の工場の「八時間勞働」とか「賃銀値上」なんぞを羨んではなりませぬ。

只凡そ物には長所があれば短所が之に伴ひます。農業の短所、農民の不便は

(一)町のようにあたりが賑やかでないこと

(二)よい着物をきたり、お白粉つけて仕事が出來ぬこと

(三)電車に乘られず、歩かねばならぬこと

われあやまりて谷におち
今は千尋のそこにあり
谷は荊棘のおひしげり
いでてきぬべき道もなし
明日だに知らぬわが命
せめてはこの世のわかれにと
子を思ふてふ夜の鶴
泣く泣くこゝにたづねきぬ
ことばをはらぬそのさきに
裾ひきとめて父上と
呼ばむとすればあさもなく
窓のともしびかげくらし
夢かうつゝかあらぬかさ
思ひみだれてあろほどに
あかつき近くなりぬらむ
木魚のこゑもたゆむなり(以下次號)

町の女の爲に

○訪問時間は午前九時から十一時頃、午後二時頃から五時頃まで

○女の名刺も餘り小形は却て氣障なもの。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

(四)一度に大もうけが出來ぬこと

(五)大きな學校や會社や銀行の少いこと

然しよく考へてみると、是は當り前のこと、短所ではない。寧ろ是からは、賑やうな所は下等な所として住み手がなくなります。東京でも靜かな所は家賃も高いのです。賑やかな町の中にわざと公園をこしらへてゐるではありませぬか。次に着物ですが、是は前號にもかいた通り、粗末な着物を着て仕事が出來る人は仕合せ、町では物價騰貴で非常に困つてしまひ、お役人も背廣を禮服にすることが許されました。背廣は勞働服です。次に電車に乘れないのは當り前のこと、電車は忙しい人の乘るもので、お百姓が山にゆくには五分や六分後れてもよろしい。電車の代りに人間の足、是が一番安全で、且つ高尚です。今でも東京では、尊い人は電車に乘りませぬ。自働車にも乘りませぬ、遲い馬車に乘ります。然し人の足が一番おそい、おそいのが高尚なのです。仍で足であるくお百姓が一番たふとい。

(七) 愛と信とを以つて

一時に大まうけが出來ぬのも當り前、そこに農業のたふとさがある。その代り一時に損することもない。末永くやつてゆけます。土地さへあ

中位が一番よい

○談話時間は大抵廿分間、特別の場合は此の限りにあらず。

○室内をきよろ〱見廻したり横目を使つたりするのはごく無作法

○座蒲團のはしに坐るは座蒲團の恰好を惡くする、敷くつもりなら初めから眞中に坐りなさい

○主人と談話中であつたなら火鉢お茶を進められても、挨拶するには及びません。

○土曜日曜の訪問は外出の人が多いからあらかじめ電話をかけること

（讀賣より）

吉野村儉約申し合せ

（靜岡縣濱名郡）

一、常に仕事に精を出だし、稼いだ金を無駄使せず、貯金を以て嫁入支度を整へたものは、精勵者として村で表彰すること、

二、着物はすべて綿服を着ること

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れば。
次は學校や會社、こんなものは用はない筈、勉強したければ、都會へ出るし、お金を預けたければ町の銀行へゆく、田舎にあつては邪魔です否、大自然そのものが大學校です。聳ゆる山、流るゝ川、皆學校です。畑は銀行、田は金庫、寧ろ田舎には煙突無用です。煉瓦造り無用です。なるべく自然のまゝにして置くのでよい、文明は打ちすてゝ置くとも、きつと田舎を荒しにゆくから。
只私の望むのは、野に居つても文明の智識を吸ひ、社會の形勢を知ることです。さうして自覺して土に親しみ、感謝してその業を營むことです。先祖代々やつて來たのだから致し方ないといふようなことでなく心から農のたふとさと誇らしさを知り、自然に對する愛と信と敬とを以て生活されんことであります。之を文明の農民と申します。

野の唄

山を通れば薔薇がとめる
薔薇はなしやれ日が暮れる
龍田川無理に渡れば紅葉が散るし
渡らにや聞かれぬ鹿の聲

三、婦人用絹ショール、金銀寶石入時計指環、絹張洋傘其他の品は買つたり使つたりしてはならぬ、
四、五月端午の初祝、十一月十五日、七五三祝、破魔弓の祝儀を廢すること、
五、婚禮は質素にして、招待者を限ること、
六、ふだん卷煙草をのんではならぬ。
七、村で芝居の願をやつてはならぬ。

處女會報

岐阜縣武儀郡坂の東村處女會報第四號を拜見しました、實に深切にきれいによく出來てゐまして、感心いたしました、救濟課の方々にも回覽に出し地方局長にもお目にかけました、會報がよく出來てゐる位ですから、會もさぞ美しいことでせう、かように深切に上手に出來てゐます會報はあまりみたことがございません。ます／＼強く優しくまじめに働け主義で進んで下さい(ア生)

處女會則を募る

皆様の地方の處女會は婦人會の會則を送つて下さい。中央部に具へて置きます、其外寫眞も送つて下さい。新年號に掲げますから。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

女子の本分

(一)　女子あつての男子

兎角今までの女子は、引込思案で、自分を卑下しすぎる缺點があつた。『どうせ女のことですから』など、自分で自分を力のないもの〻ように思ひ諦めてゐるものさへあつた。尤も是は女子ばかりの罪でなく、男子の女子のみかたの間違つてゐたことにも原因してゐる。男子ばかりの社會のように思ひ込み、女子の働きを認めず、眞の地位を輕んじてゐた所から、自然と女子も卑屈になり、男子の奴隷のようになつてしまつたのである。然し是はもう昔のことで是からの婦女は男子の忠實なる侶伴となり、協力者となつて、家政のことは固より、育兒にも、經濟にも携はらねばならぬ。男子あつての女子であり、女子あつての男子である。男子のみの家庭でもなければ女子のみの家もない、男子と女子と、共に其分に應じ、其働きに從つて最善の力を致すといふ點に、男女生存の意義が存するのである。

(二)　引込まず出過ぎず

然し注意せねばならぬことは、出過ぎた言動である。引込思案や卑下しすぎるのはよくないが、さりとて自惚れて已の力を過信し、出過ぎた振舞をしたり、男子の領分にまで突き進んで所謂お轉婆娘とな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

り、出過ぎものとなつては大變である。各々其の本分の存する所を自覺し、自己の本性に從つて其の爲すべき所を十分になすといふ覺悟が大切である。

女子の本分はいふまでもなく家事育兒である。夫婦共稼とが、婦人の職業とか、女子の社會的活動とかいろ／＼説を爲す人もあらう、又實際社會に出て働く女子もふえて來たのであるが、どこまでも、女子は女子らしく、家庭の萬般を切り盛りさして、一家の治安取締に任じ、夫の働きをして容易ならしめるの心掛を忘れてならぬ、是からの男子は生存競爭の社會に處して一方ならぬ奮闘をせねばならぬことであるから、苦勞骨折も並大抵でない。仍で妻女たるものは、陰に隱れて家事一切を切り盛りし、育事を擔當し、經濟をも上手にして、夫を慰め、其の疲勞を癒やして意氣を新らたにし、新鋭の氣を以て社會に働き得るように、努めなければならぬ。男子を汽車とすると、女子は機關車の如く、十分に火を焚いて活動力を起こさせねばならぬ。此れ試に重大の任務である。

（三）　妻となり母となつて

婦女子たるものは、此にその天職を認め、自己の最善の力を此に傾到しなければならぬ。之が一番女子の天性にも叶ひ、又男子要求にも叶つてゐることである。家に居つて家政を掌り、夫の社會活動力を盛んにするといふことは、決して消積的な無意義な仕事ではない。重大な意義ある仕事である。現今の女子は動ともすると、之を消積的な小さな仕事と考へ、男子と相列んで社會に出で〻働こうなど〻考へるのは大變な思ひ違ひと言はねばならぬ。女子が妻となり、子供を生み、育てるといふ使命を有つて爲る以上女子と家庭とは離るべからざるものである。女子は之を掌ることを大に名譽としなければならぬ。男子も亦家庭の仕事に敬意を拂ひ、十分に妻の人格を認め、其の努力を尊重し、自由に其の力量を發揮するように望まねばならぬ。男子が婦人の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

家事奉仕を尊重すれば、婦女にも亦此に責任と自重とを感ずるようにならうと思ふ。双方共に反省して互に敬愛尊重の家庭を樂まねばならぬ。

（四） 心を協せて質實に

次に地方の婦人は都會の婦女子に比べて、其の生活は、質素で、娯樂も乏しいように思はれるが、地方には又地方の特色がある。漫りに都市の繁華に眩惑せず、其の本分を守つてまじめに働くことを望む同じ鍬を持ちながらも、家の爲である、村の爲であると力強き自覺の下に感謝して働くのと、嫌々おつとめに働くことは、其の効果に於て格段の差があるどこまでの自覺して境遇に滿足し、職業に感謝して働かねばならぬ。竈を焚きつけながら東京の繁華を夢みては、湯の沸き方も遲い、鍬を採りながら花見遊山を考へてゐては、深く土が耕せるものでない。何事も誠心を以てせねばならぬ。近年地方も段々に贅澤になり來つたといふことであるが、少くとも地方處女會は心を一にして質素剛健の本領を發揚して鄉村の開發を圖らねばならぬ。

（五） 婦人の社會見學をすゝむ

又近年地方處女會婦人會などの事業の一として、東京とか大阪とか又は鄉里に近い大都會などに修學旅行を試みることが盛んになつたようであるが、是は大へんよい企と思ふ。是からの婦人は廣く社會の事情にも通ずる必要がある。然し只都會の賑やかな明るい方面ばかりみて歸つてなんにもならぬ、都會の日影ともいふべき所でも十分に觀察し、又工場とか、官廳とかさういふ場所をもよく視察して見聞を弘め智識を養ふようにしなければならぬ。都會の見學をした爲に、歸つてから、鄉土がたのしくなり、仕事が樂になり、取る鍬が輕くなるといふようにあらねばならぬ。

かくの如き都會見學にして、始めて意義があり、效果も存するのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

結婚と青年と處女

(一) 結婚を恐れよ

相愛する男女が結婚の方法に依つて夫婦關係を結び家庭を形づくる、家庭が集つて社會となり、國家を成す、天理は自然にして微妙である。社會改良といひ、改造といひ、論ずる所は喧しいが、詮じつめると、相和せる家庭の創造といふことに歸着する。この理想の生活も、其の根本は結婚である。古來結婚を人一代の大事として取扱ひ來つたことは、誠に道理である。

是からの青年處女は固より父兄も、結婚に對して、より多く、より深く考へなければならぬ。殊に娘は、從來物品のように、年頃になると、道具かなんかのように「貰はれてゆく」と言はれてゐた。大切な女一人を貰つたり、呉れたりすべきものでない。生命の結合である。立派な人格を持つた男女の精神的及性的の結合が結婚である。どちらが貰うも、貰はれるもあるものでない。妻のよしあしに依つて夫百年の苦樂が岐れるといふが、娘の方でも、夫がこのましくなかつたならば、生涯はおろか、子まで孫まで浮ばれぬことゝなる。

○日常の心得草

○胼・凍瘡の療法　おひ〳〵寒風身にしみ渡る頃となるにつけ、小兒又は水仕事をする人は殊に胼・凍瘡などにかゝることが多きものなれば、其手當につきて申さんに、そも〳〵胼も凍瘡も、濡れたまゝ寒風に當るより發る病であるから、先第一濕り氣に氣をつくるがよろしいのです。さて胼は大變宜しい藥があるのですが、劇藥が入用ですから、普通の家庭では作れませぬ。先づグリスリン・酒精各三分に水四分（合せて十分）を入れたものを塗るのが宜しいです。凍瘡には早く沃度丁幾と酒精とを半々に合せたものを、朝一回、寐しなに一回づゝ筆でぬるのが宜しい。若し崩れかけて來るやうなら、三十倍の硼酸軟膏をぬりつけて、結ツておき、毎日一回づゝ取かへればよろしい、其他にもいろ〳〵療治の仕方があるが、先づ家庭にて出來易いものを申せば、次のやうなものでございます。

・以上は本會講師三島醫學博士の說ですがな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

是からの娘は殊に結婚といふことに對して考へよ、恐れよ。

(二) 結婚は樂しく苦し

然しながら從來の結婚の制度から、結婚するまでの順序といひ、方法といひ、時代に伴ふて改良すべき點は多々存する。其の最大なるものは從來は、支度とか、見合ひとか、結納とか、家の財産とか、さういふものに重きを措き、肝心の結婚する本人たちの、趣味、性情、健康、天分といふ方面を輕視した嫌ひがあつたことである。今日では家のみの爲の結婚ではなく、青年と處女の爲の結婚である。是が軈て家庭の中心となり、社會を淨化する根本となるのではあるが、出發點は、男女同士が愛の共鳴でなければならぬ。

只浮いた心や、あこがれの氣分で、お嫁にゆくのは後で後悔する基である。『結婚は樂しきものなりされど時としては尤も苦しく悲しきものとなる』と私は言ひたい。

女學校では良妻賢母を養成すべく、其を主義として訓育を授けてゐる處女會婦人會でも良妻賢母主義を標榜してゐる。妻となり母となることは婦女子の當然の結果でせう、然し男女なくして妻となり母となることは、出來ない相談である、將來中學校は固より青年會に於ては良父賢父を主義として敎へねばならぬ。

ほこのことについては、ドクトル、ベルツ氏の處方もある。それは、苛性加里〇・五、グリスリン二〇〇、アルコール二〇〇、水六〇〇、を合せ置き、まづ患部を温湯であらひ、後に右の藥を毎日一回つゝ塗れば、二三日になほるさうである。又しもやけには桐の葉を煮じ、その汁で洗ツてもよい。これは或る師範學校の女子部で、度々試みて其効あツたのである。

□ことわざ集

三つ兒の魂百まで
麥刈急ぐより鎌をさげ
若い時の辛棒は願ふてもせよ
回る車は錆びす
忍耐は苦き木なれども甘き實を結ぶ
怠け者の貸銀は貧乏なり
人の振みてわが振なほせ
親の意見と冷酒は後にきく
子が思ふより親は百倍思ふ
親の耻は子の耻子の耻は親の耻
子をもつて知る親の恩
親と月夜はいつもよい
深切は損とならず
勉强は仕合せの右の手儉約はその左の手
怠惰は世界最大のぜいたく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

鄙ぶり

梅廼家薫述

近世へなぶりとか云ふ一種の句作法あり、和歌ともつかず狂歌ともつかず、雅に似て雅にもあらねば俗に似て俗にてもなきもの乍ら中々に面白く思はるゝふしなきにしもあらねど惜しきことには兎角に卑穢に流れ淫靡に陥り、良家の少婦や無垢なる處女達に對しては或は良からぬ氣風をも招くべきの恐れなきを保し難きを慮りて、爰に我が處女會は更らに之に一と加減を加へて新に鄙ぶりと名命け、田舎の儘なる化粧もなければ御世辭もなき其の興趣感懐を純潔なる處女の口に歌はせしならば、必ずや風致涵養の一助ともなるべきと思ひ立ち、所謂試驗的に或一部の方々より募集を試みたりしに思ひきや忽ち數百首の寄贈あらんとは、去れど和歌の徳たるあめ(天)つち(地)を動かすとかや歌聖貫之大人も古今集の序文に物せられし程なれば、近頃のやうなる思想動搖の世の中に此の上天地震動など大變事でも出來する如き事ありてはと深くも心に慮り、中に就て言葉の政事に觸れし部分のものは之を割愛するとゝなし左の數首を收錄し以て大方の一粲を博せんと欲するとゝなしたるにぞある、隨つて次號より引續き此新案を掲出する事とすべければ四方の淑女令嬢請ふ、玉詠の寄送な吝み給ふな。

教育落語 和歌の徳

「歌を讀む女は妻に持たぬもの亭主を臀に敷島の道」と詠れましたのは近世名代の名僧芝三緣山增上寺の福田行誠上人でムりますが、如何に女權萬能の世の中とは申しましても、マサカに其ンな御婦人計りあるものではありませぬ、御婦人樣方の和歌を讀まれますのは誠に優美のもののみではなく、其の昔し小野小町は旱り續きで農家では面喰つて居られます時に三十一文字の功力で大雨を降らしたと云ふことゝムりまするし、在五の君の奥方は「風吹かば奥津白波立田山」の歌を讀まれまして業平さんの御不行跡を喰止められたことなどもあります……是は或る勞働階級のお神さんでありましたが、御亭主が毎日毎日白馬とか申しまする粗造のお酒に醉ひ倒れますのを苦々しく思ひまして「宿六がドブ六飲んでズブ六に醉ひたる樣の六でなしかな」と詠まれまして、貴郎妾こんな歌を讀んだのよ、一寸見て御覽ナさ、云はれましたが、御亭主はナニお前かヌタを詠んださ、箆棒めヌタよりもドブ六の相手には慈眞にしネー、ナニ歌だと其いつはおつだ、一寸見せネー、成る程宿六がか、ドブ六飲んでか、ズブ六にか、醉つたる樣の六でなしかな、だと成程之は四六御尤た、其れでは己れも明日から酒は止めようとはトンだ大正の業平朝臣でありますよ

○働の字義

勞働と云ふ字義を痛く卑賤なるかの如くに考

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

題（冬）

寄稿は端書　宛名は『處女の友發行所』

菊咲て菊作らうと思ひけり一枝折つてリボンに添へつ　松子

庭木には櫻牡丹はよしねかし桃や李は花も實もあり　桃子

成金も桂馬の足にはねられて昨日に替る情けなさかな　同

燒芋の薫りも高き店先で乙女の姿暫し留むる　東花

海士達の色はいづれも黑けれど山部の人は顏も赤人　はつ

飛行機も田舍はいやかいつとても都の空を行きつ戻りつ　柳女

面白く心浮き立つ野良遊び蛙ピョコ／＼蝗バチ／＼　廣作

一枝は先づ先生に捧げんと鋏手に取る梅の初花　信子

姬樣は奇麗の花と御感なり日比谷に咲し黃菊白菊　萬龍

秋晴れに登つて見れば十二階世の人々は蟻の如見ゆ　三千子

染殿の娘こそあれ巧みなり世界の地圖の色の塗り替へ　喜樂

釣糸の先にかゝれる大鯉は惜しき所で夢は覺めけり　同

いつ見ても香煙高し義士の墓苔蒸すとても國の礎　同

鎌取つて稻の穗握る村長の娘の姿男々しくぞある　同

軸

埋立の茶店に据えし遠目鏡安房下總は己が庭かな　梅廼家

へる人々もありてや、其の筋にても近來勞務者となん呼ばるゝ由なるも、よく／＼此の働の字の意味を吟味すれば決してさる卑むべき解合のものではない、貴賤上下老若男女を押しなべて、苟も生きとし生くるものは結局此の働の字を沒却することは出來ぬ、云ふまでもなく人偏に動を添へたものが働である卽ち動くべき人となるのである、若しも動かぬ人としたならば其れは死人でなくてはならぬ、去れば生々潑溂の程度の豐富なるだけ、其れだけ働の字の本領に適ふものであらう、言ひ換ゆれば紡績に從事する人々でも將た其の他の業務を執るものでも其の手を動かし其の足を動す分量の多きものだけ此の貴ぶべき動く人の意味に接觸するものにして同時に忌むべき死人に遠ざかるのであらねばならぬ、若し夫れ資本家の側よりして此働の字を解剖せんか動人は卽ち人を動かすの意味となるのである、資本家たるものは巧妙に人を動かすのが大なる無形の資本であらねばなるまい、要するに動かぬ人は死人である、人の動くのは何より以て慶祝すべきものではないか、人を動かすも亦名譽の事柄であらう、斯く文字組織の本源を知りたらんには決して勞働の文字は卑下すべきものでないことが首肯るゝであらう、是に於て乎勞働は神聖なりと云ひ得らるゝのである、古人の道歌にも『働くに逐ひつく暇はなしの木の露吸ふ蜂を見るにつけても』『動けざる人となりては憫れなる動ける中に働けよ人』と歌みたるものがあるが全く以て其の通りである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

働いて下さる妹方に

柏村玉溪

□

皆さん、初めて私はこの雜誌を通じて、私がふだん思つてゐる事を云はせていたゞきます。

私は年を取るにつれ、物事に對して『ありがたい』といふ、情が深くなつてまゐります、靜かに考へて見ますと、私のまわりにあるもの、私の使用して居るもの、身につけて居るもの、一つとして人の勞力によつて作られないものはありません、流行をくれの着物でも、たとへそれが木綿であつても、或は布の一線でも、作つて下さる方の、時間と多大の勞力の入つてゐるのを思ひます時、どうして感謝しないで居られませうか。

□

どうして粗末に致されませうか、私はいつも女工さんといふ樣な方に對して、ほんとにありがたう御座いますと、蔭ながら御禮を申して居ります、又尊敬も致します、世には何かの使命を持つて生れてゐるにもかゝはらず、それを感じもせず、只自分一人の榮譽の爲に、其日

工場巡廻　富士瓦斯紡績小山工場ノ概況

一職工總數　八、六九八人

内　男　二、二三二人

女　通勤工女　一、五三二
寄宿工女　四、九三三
計　六、四六四

一女工の重なる出身府縣

靜岡縣	一、〇五五
宮城縣	七五一
山形縣	六三六
青森縣	五六〇
山形縣	四三六

一勤續年數（平均）

男　三年五ヶ月

女　通勤　三年九ヶ月
寄宿　二年

一永年勤續者（天長節表彰）

自十年至十五年	男	二四二
	女	一三九
自十五年至十九年	男	四四
	女	二三
二十年以上	男	一一
	女	二

一定期及臨時休業日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

其日をボンヤリと送つてゐる、誠に氣毒な婦人も多いのですが、皆さんはとにかく、人に必要な物品をセッセと製作して下さるので、ありがたう御座います。

□

皆さんはまだお年も若いですから遊びたいでせう、キレイな着物もきたいでせう、ごもつともです、けれどもその慾望をよい程にみたさねばなりません、又一生懸命に遊ぶ時は、何も忘れて遊ぶ事が大切ですからウントお遊びになるがよいと思ひます、しかし其遊びがあなたを益し清く、導かせるものでなければいけません。あなたを墮落させ、二つとない貴い、あなたといふものを、どうすることも出來ないようにせぬ樣に、將來立派な日本國民の母となり、又は妻となるには、今のあなたは其遊びをもよく考へて、なさらなければならないと思ふのであります。又年の若い時は、少しでもきれいな着物がきたいものです。それも惡くはないと思ひますが、どうぞ自分に似合つたものを着るこいふことをお忘れにならないで下さい。よく世間で、いかにも見せぶらかした樣な氣持が、見えすいたなりをしてゐるを見ますが、私はそんな方をどうしても敬へません。一番キレイな着物は、其人相當のものです。云ひかへれば、其人の年、身分に似合つたものです。

毎月三日、十一日、十九日、二十六日
紀元節　神武天皇祭
盂蘭盆會　天長節祝日並起業祭
年末年始（十二月三十日より一月三日迄五日間）
外に國家的紀念日等に臨時休養日を設く

一勤務時間並交代時間

十二時間にして紡績職工は之を甲乙二組に分ち一組は午前六時より午後六時迄とし他の一組は午後六時より午前六時迄さす
十二時間の内一時間の休憩時間あり

一女子平均年齡

通勤　二十五年十一ヶ月
寄宿工　女十九ヶ年五ヶ月

一貯蓄狀態

會社には貯蓄奬勵の主意により設けられたる特別貯金制度あり該貯金は會社が從業者に對し年八朱の高利率を附しつゝあり大正八年九月末現狀左の如し

職工種別		金額	一人當貯金額
男工	一、三三二	一〇二、三三二、一六〇	八二、一六〇
通勤工女	六八八	二七、四一七、九七〇	三九、八五〇
寄宿工女	四、三四八	一三〇、八二五、三四〇	二九、四二〇
計	六、三六八	二五九、四六四、四七〇	四〇、七四〇

外に郵便貯金銀行貯金あり
（備考）寄宿工女は常に家鄉に送金するを以て一人當りの貯金概して少し通勤者は多くの場合一家の主たるものにして父兄夫等の名を以て貯金するを常とせり、是通勤工女の金少き所以なり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

冬立つ日

田中廣太郎

○

日の本はさもあらばあれ豊饒の
氣ぞ野に滿てり秋高うして

○

秋晴れや君が代うたふ童らの聲
聞え來ぬまちりて見たし

○

目覺めなば出でゝ見給へ湖そひの
霧にほのみく紅葉の色

○

菜の畑を隔てゝ杉の一叢に
煙立つなり秋の曇り日

○

口づけし母の乳房も皺枯れて
衰へたりな小春日の椽

○

落葉敷く石のきはだを遍くも
流るゝ水の冷けさかな

○

林檎かみしみじみ淋し我秋を
味ひて行く薄寒の朝

○

風吹けばそも何事の起りしや
行きて見んとて落葉みな驅く

○

もみぢせし葉のわづかにも殘りたる
柿の梢に白き夕月

○

冬立つや朝あざやかに不二のねの
聳ゆる方に汽車の行く見ゆ

○

朝顔のこぼれし種の柔かき
若芽いたまし冬立つ朝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

活動寫眞をとるの記

一　須津村にお禮

活動寫眞「都にあこがれて」をとる爲に靜岡縣富士郡須津村に赴き、影山先生始め職員の方々稻垣禎次氏其から村の方々のお世話になりました淑女會はわざ〳〵稻刈りに忙しい大切な日を二日も休んで下すつた、青年會員も應援をして下すつた厚く御禮を申し上げます

二　お房さんのキャハン

須津村でとりましたのは、富士山を背景とする農村收穫の光景と、淑女會員の稻刈り、太平一家の田の中の食事、淑女會の相談會、同發會式。お房が田の歸りに小間使のおちゑに會つて繪はがきを貰つて都にあこがれる場面、其から校長に救はれて家に戻る場面などでした。

京都からは牧野氏及令孃富枝、靜子さんを首め技師、役者など十二人見えまして、お寺へ泊めていたゞきましたが、皆敎育活動寫眞に趣味をもつてゐる人ですから、まじめで熱心でした。

牧野富枝さん(二十一)と靜子さん(十六)が田舍娘になるのに、着物を借りるやら、鎌を借りるやら、脚絆が太いので細くするやら、古い草履を借りるやら、其は大噪ぎでしたお父さんの爲に、役者になつた娘さんの心のいぢらしさ。

三　鎌に朝日がキラ〳〵

その朝私が三時に起きますと、富枝さんも心配でねられませんでしたといつてもう目をさましてゐました富士の夜明けの風が寒い位でした。

その中お父さんも起きなさる、花房技師金森監督も起きました、富枝さんは田舍娘に假裝してなか〳〵よく似合ふ。

一里ばかり朝つゆを踏んで田圃に出ましたとき、東の空が明るくなつて箱根山の方から旭日がきら〳〵と躍り出さうになりました。

『さあお日さんがでなさる今だ』とお父さんは富枝さんをせき立てます『よしさあ始めた』といふ一言でお房に扮した富江さんは草刈り姿になつて畦路を歩き出します、花房技師はガラ〳〵と寫眞をとり始める。

其は最後の場面で、お房が都でかどわかされて、后悔して家に歸つた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

その翌くる朝早く野良に出る所の場面で、お房が朝日をヂッとみつめて感激の涙を浮べ、持つた鎌の柄をしつかと握つて、田園生活の決心をするところは、いかにも、よく出來ました、お房が鎌の柄を握つてにつこり笑ふその横顔を旭日が照らしました、何とも言へませんでした。『日本一の田園女優』と私は富枝さんを讃美しました。

四　お母さんが尻もちつく

小間使のおちゑさんには、男の役者がなりましたが、顔を眞白に塗つてきれいな着物を着て、指環を嵌めたその樣子のおかしくもあれば眞に迫つてゐるのに感心してしまひました。お房が野良からの歸りに、このおちゑに會ふのです『おやお房さんしばらく、ごきげんよう、ずいぶんねえ、ごぶさたしてよ、皆さんお變りはないの、さう、ほんとうにおなつかしうございますわ、あなた東京を御存知』といふよふな調子で話しかけられるので、さらでだに、都にあこがれてゐるお房、耐らなくなり、貰つたゑはがきを懷ろにだいて家路に就くとき、東京行の汽車がゴーッと通る、お房それを見送る體。

お房が東京から校長に伴れられて歸るところも實寫したが、太平の悴の女房が門前の小川で洗濯してゐると、お房が校長につれられて、しほ〳〵と來る、其を嫂がみつけて

『お母さん、お房さんが……』

と側に芋を洗つてゐる姑さんに知らせる、姑さんおどろいて尻もちついたところも、なか〳〵面白うございました。

五　お房さんはづかしがる

東京では高橋東京驛長から『さういふ爲になる寫眞なら驛から降りるところを寫してよい』との特別の御言葉でしたので、東京驛を實寫しました。

お房が本所の叔父をたづねてゆく途中、日本橋の白木屋呉服店の側を通り、ふとガラス窓を透して中をのぞきますと、結婚支度の美々しい、衣裳が陳列されてゐます、友禪染の長繻絆やらきれいな半襟やら……お房が其にみとれるところをもとりましたが、何しろ東京の眞ん中ですから、往來に人が一ぱい、お房さんはづかしがつて困りました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人目を憚つて口入屋の暖簾を潜るところもとりました、惡漢の家から逃げ出して足袋はだしで上野公園の不忍池の柵にもたれて泣き悲んでゐ

> **富枝さんからのお手紙**
>
> 「都にあこがれて」のお房さんになつた牧野富枝さんからのお手紙の一節です
>
> いかやうなるものが出來上るでせうか、若し先生や父の心にすまぬものが出來上りはせぬかと只々不安のみにて一人苦しみ居り候へども、一心になれば何事かならぬといふこともあるまいと、それのみ心にかけ居り候この上は先生や父に一言、ほめていたゞく事が出來る樣にと母と共に祈り居り候（下略）

る所は、上出來でした。警視廳の人事相談所も特にとらせて頂きました。

亦校長が内務省に出頭するところそして地方局を訪ねるところもとりました、富士瓦斯紡績押上工場を視察するところもとりました。お茶の水の教育博物館を視察するところもとりました。すべてが實寫ですから興味があります。處女會理事會のところもとりました。

六、『野の幸』

惡漢の場面其他は京都でとることにしました、東京と靜岡と京都とに跨つた寫眞です、尚この寫眞をうつす時、音樂を加へることになりまして、歌を文部省と相談の上新進作歌葛原氏に、曲を音樂學校教授の方におたのみ致しました。題は『野の幸』田舍乙女の意氣を歌つたもので、中に處女會訓の強く優しくまじめに働けといふ文字が入つてゐます。

尚寫眞の始めに、この會訓が大きく出ますが、其は中央部の理事の跡見花蹊先生にお願ひ致しました。

『都にあこがれて』がどういふ方法で全國を巡廻しますか、其はまだ譯りませぬが、皆さんには、是非見ていたゞきたうございます。

□東京女子教育家と活動寫眞

◇『都にあこがれて』の爲に寫して下さる

『都にあこがれて』家出をした娘は、婦人同情園に救はれて、今はすな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ほなよい娘になつて毎日そこでお洗濯をしたり、針仕事したりしてゐます、其處へお房の村の校長が、東京見學の序に立寄つて圖らずめぐり合ふといふ筋ですが、校長は內務省や敎育博物館をたづねますと、こんどは處女會の中央部を訪れて、理事の方のお話を伺ひます、其處を實寫にとりましたが、此に特に感謝しなければなりませぬのはその爲にわざ〳〵理事の棚橋絢子、三輪田眞佐子山脇房子、嘉悅孝子、吉岡彌生、先生の御出で下すつたとでございました、是はこの寫眞の爲に此上もない光を放ちます、然し此で深く御わびをせんければなりませぬのは、技師が器械を損じた爲に後れて來ましたことでございます、棚橋先生と國府先生は歸つておしまひになりました、是は非常な殘念なことでございました、他の方々も一分を爭ふ位な忙しい方でしたが、二時間も餘計に待つて下さいました、まことに申し譯のないことでございます。

□處女會活動寫眞全部揃ふ

十一月三十日から開かれます生活改善展覽會の開期中に寫しまする活動寫眞の中處女會の活動寫眞は全部で左の四本でございます。

一、廣島縣沼隈郡千年村及山波村處女會（山の貴婦人）

二、三重縣志摩郡答志村處女會（海女の生活）

三、靜岡縣庵原郡庵原村杉山部落（靑年會處女會の働き）

四、『都にあこがれて』（實劇）

第三の庵原村杉山部落は報德敎を以て名高い部落で群馬縣の野中部落と共に、日本中で一か二かといふお金まわりのよい所で、しかも儉約でもお手本を示してゐます、處女會は明治四十年に生れ、靑年會と補習學校は日本で一番古いのです。

東京へ御出の序には是非御覽下さい、尙展覽會の開期中地方婦人會處女會が旅行なさるならば、御すゝめ致します、收穫も濟んで野の人はお腹が一ぱいでせう、都會へ散歩にお出でになるのもよろしい。よく働きよく貯へるのは我運の望みです。新米を食へて元氣のよい皆樣が羨しい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

婦人働き會と處女會中央部

是からは町の女も働かねばならぬといふことから、東京の天野辯護士の夫人天野梅尾さんが主唱され、藤生、山田兩女史が主もなお世話燒役となつて、婦人働き會が出來ましたことは、知つて居りましたが、こんど處女會の中央部は、この會と連絡をとりまして、地方の婦人たちの中東京へ出て來て仕事なさらうとさられる方をお世話することになりました。

この會は會則にもありますように、第一種、第二種、第三種と分たれ、皆さんは第三の會員になることをお望みと思ふ。寄宿舍も近く出來るさうですから皆様が御上京になつても宿には困りませぬ、今は會の方で泊めて下さるさうです。本人の腕で一日一圓もとれますれば其以上もとれます。

□申込み規定

皆様はどうしても東京へ出た方が、孝行にもなり、自分の爲にもなると考へたならば、兩親は固より處女會婦人會長及會員とも相談して、左記の書類を添へて、中央部へ御申込み下さい。

一、戸籍謄本

二、處女會婦人會長の證明書

婦人はたらき會々則

一、本會は「婦人はたらき會」と稱し、有志婦人共同の上大正八年七月一日平和記念事業として創立せしものなり。

一、本會は會員各自の身の上の相談に與り、特殊事情及煩悶解決等の所置に任じ、必要によりては法律上の質問に與ることあるべし(但し無報酬のこと)。

一、本會は會員相互間各家庭の便宜を謀り衣服の裁縫洗濯其他家庭の雜務整理等の爲に派出婦の世話をなすこと及び會員製作品の販賣に任ずるものなり。

一、本會の會員を一種、二種、三種に別つ

イ、第一種會員は裁縫洗濯料理染物其他日常の家庭の雜務に關する主婦の保助者(女中代りの婦人)の派出を請求する者

ロ、第二種會員は本會の會務並に派出婦としての働に任ずることを希望するものとして、之を住込、通ひの二種に別つ

ハ、第三種會員はその家庭内に於ける製作品の販賣方を本會に依頼するものなり

一、第一種會員は會費として半ヶ年金壹圓を納むるものとす。

一、第二種會員は入會金として一時金壹圓を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三、本人志望の仕事及希望又は覺悟
四、東京の重な親類
五、體格檢査證

□野菊を持つてゐらつしやい

面倒のようですが、これからは大切な人の子を世話しようといふには、この位のことは當り前です、處女會では皆樣の申込みがありますれば、之を働き會に送つて相談がまとまれば、皆樣の御上京を願ひます。然し旅費は皆樣持ちです、然し停車場へは出迎へてあげたいと思ふが、其には寫眞がなければわかりますまい、けれども、その前に打ち合せして手に野菊を持つとか、女郎花の一枝をさげてゐるとかすれば、きつとわかります。出來るならば、村から五六人、つれ立つて來て欲しい、さうすれば娘の親達の相談で、誰か一人位つきそひが出て來ませう。

□桂庵はあぶない

都會には口入れ屋や桂庵が澤山ありますが、どうも信用のない家が多うございます。男女共に割のよすぎる口は、あぶないと思へば間違ひはありません。十圓とつて十五圓の仕事をしてゐれば大丈夫、中央部はまじめな人でなければ御世話しません。

納むる事。
但し事情によりては免除の便宜を與ふべし。

一、第二種會員としては會するものは履歴書及戸籍謄本に入會金を附して申込み本會にては試驗の上入會を許可す、但し場合によりてはこの限りに非ず。

一、第二種會員にして本會に入會を許可せられたる者は東京市内に一家を構へし者二名の引受人を要す但し市内に家庭を有するものは引受人を要せず。

一、第三種會員は入會金として一時金壹圓を納むる事。

一、本會派出婦手當左の如し

一	雜用婦	一日食料付	金五拾錢以上 金七拾錢迄
二	給仕婦	一日同	金壹圓以上
三	看護婦	一日同	金壹圓以上
四	料理婦	一日同	金壹圓内外
五	洗濯婦	一日同	金參拾錢以上 金六拾錢迄
六	美容婦	一日同	金五拾錢以上 金參圓位迄
七	數學英語國語家庭教師		

一、本會は相互に人格を尊重し各自の立場を理解し誠實を旨とすべきこと。

一、本會は本部を東京市牛込區田町三丁目十六番地（電話番町四九六九番）に置く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

工場だより

——工場と處女會中央部との連絡——

いくども繰り返しますが、孝女は地方の娘が多いので、皆様とは姉妹です、農村の姉と都會の妹と一所に手を握り合ふことが出來て、誠に中央部は嬉しいのです、一月號からは二千人近くの孝女が『處女の友』を讀むことになりました。農村の生活を孝女が工場で知り孝女のその日〳〵の働きぶりを、農民が田舍に居つて知ることが出來るようになりました、是からは處女の友は工場のことでも毎月がきます、皆さんから孝女に便りを出して下さい。孝女の便りも出します、雜誌の上でお交りなさい。その中には、ほんとうに手を握り合ふことが出來ます。

圖工場めぐり

中央部の工場めぐりは孝女(工女のこと)にも職員にも資本家の方からも、大へん喜ばれまして、東京市中のつもりの所が、程ヶ谷から駿河の小山にまで及んでしかもどこでも一ヶ月に一度づゝ來て欲しい、その代り『處女の友』を孝女にすゝめて、ゆく〳〵は工場の内に處女會をこしらへますといふことなので、其は双方の爲と中央部では毎月方々の工場へお話しに參ることになりました。小山工場、押上工場は毎月『處女の友』五百册づゝ、程ヶ谷工場は三百册づゝ、三田土ゴム製造會社も三百册づゝ取つて下さることになりました。

圖工場に處女會

程ヶ谷の工場長の遠藤先生は、程ヶ谷の工場に處女會の支部を作りたいとて骨を折つて居られます。『是からはよい孝女に働いて貰はねば兩方爲にならない、地

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

方の處女會員から孝女を採用するようにしたい、そして工場の中にも處女會をこしらへたい』とのお話でした、こうして日本全國の工場に孝女の爲になる處女會婦人會が出來るようになれば孝女の仕合せ、工場の仕合せ父兄の仕合せであります。

回ブラ〱金婦人

日本の孝女の爲に、姙娠中をはる〲アメリカの勞働會議に出かけた田中孝子さんは『私に同情するより日本にゐる七十萬人の孝女を愛して下さい』と叫んださうです。もう是からは工場はよくなるばかり、夜どうしの仕事も、もうちかくよされます、是からはよい孝女に高い賃銀で、まじめに働いて貰はねばなりませぬ、働く女が貴婦人です。農村の貴婦人、漁村の貴婦人、それから工場の貴婦人是がお國の三寶です。

指環を澤山はめ金時計をブラ下げ、ブラ〲遊んでゐる町の金婦人が。。。ほんとに働く貴婦人となれば、是で、日本の女は皆貴婦人となるのです、早くこのブラ〲の金婦人をないように致したいものです。

回勇ましい工場歌

十月二十五日に嘉悅理事は靜岡縣の小山工場に參りました、大變盛會だつたさうです。小山工場は富士瓦斯紡績會社の中一番大きな工場であります。東海道を汽車でお通りになる方は、箱根のトンネルを出た邊に大きな工場が建つてゐるのを御覧でせう。皆様のお村からも此處へ働きに來てゐらつしやる方があるでせう地方の處女會員で處女の友を讀んでゐると仰言れば、工場を案内してくれます。孝女となるには、先づ工場をみることです。

處女會に處女會歌があるように（今中央部へこしらへてゐます。）工場には工場歌があります。嘉悅理事から伺へば、その一節に

世に名も高き理想郷
芙蓉の峰を仰ぎつゝ
富士紡績の基なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

小山工場そびえ立つ

之を運動會や娯樂會や記念日とに歌ふさうです、皆樣もこの姉妹の歌を地方でお歌い下さい、その聲は野山を傳つて工場の孝女の耳にうれしくひゞきませう。

■工女は即孝女なり

尚小山工場と押上工場では、地方處女會員からよい孝女を傭ひ入れたいといふので、中央部にお世話をたのまれました。十一月號には三田土ゴム會社からも頼まれましたが、皆樣はあの規定をよくごらんになつて、親の爲、家の爲に、工場で働きたいと思ふ人がありましたならば

一、よく父母に相談し、親戚とも相談し

中央部の工場講活

富士瓦斯紡績株式會社小山工場(十月二十五日)
講師　中央部理事　嘉悦孝子

富士瓦斯紡績株式會社程ヶ谷工場(十月二十六日)
講師　中央部理事　嘉悦孝子
同　同　天野藤男

東亞絹絲株式會社(十一月三日)
講師　中央部囑託　坂田高方

富士瓦斯押上工場(十一月十一日)
講師　三輪田女學校頭　三輪田元道
挨拶　中央部　田所楠猪

埼玉縣浦和(十一月十五日)
講師　中央部理事　嘉悦孝子

本所押上三田土ゴム製造合資會社(十一月十六日)
講師　中央部理事　嘉悦孝子
挨拶　同　田所楠猪

二、處女會長、婦人會長と相談し戸籍謄本と身體檢査證と本人の自筆の希望とを添へて中央部へお申込みなさい。なるべく會長さんから送つていただきたい、中央部は皆樣をお引受してよい工場へお世話致します。

富士瓦斯押上工場からは、詳しく工場のことをかいたものを送つてよこしましたから御希望の方に差し上げませう。ザッと申しますと、給料は當分一日五十錢の日給、外に手當やら何やらあつて一ヶ月手に入るお金が二十圓この中一ヶ月の食料が三圓三十錢(一食三錢四厘ほど)寄宿舍があるから家は入りません、外に身のまわりのものを一圓七十錢使ふとしても十五圓はのこる勘定、外に賞與もありますから

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ぜい〳〵儉約すれば、契約年限の二ヶ年には大いへんな貯金が出來ます。お嫁入りの支度も出來ます、故里の父母へ送金も出來ます、お婆さんへお小使が送られます。こういふ心掛の工女でなければ工女は卽ち孝女なりとほめられたません。

自分は親の爲に工場に來てゐるのだ。孝女だといふ考を一寸の間も忘れないようにしてまじめにい働て下さい、なるほど處女會員の工女はどこかちがふ、見上げたものだといふようにならねばいけません。

先頃地方の處女會員を一人女中に世話しましたところ、奥さんは大へんよく働くといつて可愛がつて下さり、『あの處女會といふのが厶いますさうですねえ、時々私にも敬老會を開いたことや、いろんなことを話じてくれますよ』と、私に話されました。

◙處女會員の外國ゆき

皆様多數は、故里に生れ、父母のお膝の下で大きくなり、幼な友達のゐる町や村に嫁いで、そして祖先のお墓の横に葬られる、こんな仕合せなことはないのです、人間到るところ靑山はあるが生れた鄕里はたつた一つ。私共は皆様に鄕里を飛び出せとすゝめるものではない。然しいつもいふことですが、人に依り、家に依り、又はいろ〳〵の出來ごとの爲に町に出て働いてお金とりをしなければならぬといふ人の爲に、婦人働き會や工場と連絡をとつたのです。心さへしつかりしてゐれば、東京へゆこうが、仙臺へゆこうが、北海道へゆこうが、一向心配はない。心が第一です。甲州にゐて不品行の女は靜岡へ來ても駄目、九州の孝女は東京へ來てもお手本になります。

故里を愛するが爲に故里を去る。家にゐるも親の爲町へゆくも親の爲、これでなければいけません。いえいえ今に皆様は萬里の波濤を乗り越へて遠く外國へゆかねばなりません。中央部が海外植民のお世話をして皆様を横濱の波止場に見送るようにならねばいけません。(あまの)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女文壇

思出の記

鳥取縣八頭郡山郷村　藤原茂子

それは盆踊の夜の事でありました。「姉樣明後日は觀音樣にお參りして踊りを見て來ませうね」愛らしい笑顔で私を見上た妹は、その明後日をもまたで、あの世にゆこうとは、思へば皆夢の樣でございます、あの美しい頰黑き眸赤き唇あゝ可愛いゝ妹よ今は如何に。

優しくも倚悲しみぞいやまさる

我がはらからは何處なるらん。

「評」姉妹の情よくあらはれたり

和歌

三重縣外賀郡北目岐村　坂本久美

ちゝさなく虫の音きけば三つ年の
むかしゝのびて涙こぼれぬ

島根縣朝川郡　森　脇　操

七草にやどれる露の白玉や
朝日にうつる清き眺めは

廣島縣豐日郡長谷村　冲元　艶子

心地よし兄の作りし千瓢の
皮むく音を雁の鳴きゆく

滋賀縣蒲生郡市邊村　中川とら子

島より歸りて見れば病む母の
居間に淋しや秋の夕かげ

島根縣飫川郡灘分村　山根ふさの

露しげき千草の下にコホロギの
秋の夜永をつれ〲に鳴く

俳句

稻刈や鎌をさきつゝ水鏡

島根縣朝川郡灘分村　山根ふさの

秋の野の千草の影に蟲の聲

靜岡縣富士郡野中村　鈴木　すぎ

着飾れる女の群や秋祭

大分縣西國東郡三浦村　榎本うめ子

暮色追る野や野菊白う浮く

東京見物より歸りて

あたりが何となく秋めきて吹く風も物淋しき時節とは相成りました其の後御親切な先生樣は如何遊されますか、打ち堪えての御無音御許し下さい、さて先日は御手厚御世話樣に相成り、有難く御禮申します、校長先生から承はりましたが先生が御迎ひ下さるとの事、私等の嬉しさ一通りではありません先づ行つて第一に丁寧に案内して下さつた紡績會社には驚きました其のほか新聞社又内務省みな驚く物珍らしの物ばかりです、そのあした淺草につき先生と御別する時の淋しさ忘れる事は出來ません、又先生の御親切は忘れる事は出來ません、皆さんと面白く樂しく旅行したのも一生の思出の種になるだらうと思ひます、校長先生からの御話に先生も當方に御出下さるとの事心ながら御待ち申して居ります先は亂筆にて御禮かた〲かしこ（群馬〇〇子）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

編輯便り

□十二月の校正を終へて吻とした何やら今月は忙しかつた。然し處女會が一日々々と成長してゆくのがたのしい。工場との連絡も工合よくゆく。

□田舍は收穫の大戰爭、然しこう雨ばかりではさぞおこまりであらう。ひと戰爭終へるとお正月、

　正月は出世の旅のステーション
　　花のみやこも近くなるらん

□大正九年度の本紙は面目を一新します。

大正の一休和尚はこの通り。

もつと〳〵面白くそうしてすらすらとよめるようにします。新たに記者が入りましたから御安心。

□作文が少しも來ない。鎌が筆だから來ないのも無理はないが、紙上でたより位は致しませう。それがほんとうの作文。

□「強く優しくまじめに働け」を書いてよこして下さい新年號には、跡見花溪先生のこの會訓をばお頒ち致しませう。投書しない方にはあげませんよ。

□大正八年ももうゆくか。私は來年は○十○になる、皆樣よあてゝごらんなさい。來年から處女會員の寫眞もかゝげます。御よこし下さい。一家團欒の寫眞なら尚よいお嫁入の寫眞もよい、畑へ花婿花よめ揃つて出かけるところなど、殊によい。今に中央部で寫眞器械をもつてうつしにゆくようになります、

□中央部の事務所は麴町紀尾井町三番地へこしました。然し處女の友の發行所は以前のところです。

□皆樣のすこやかに、元氣よく、思ひ出多き年を送られ、のぞみを以て大正九年を迎へられんことを祈ります。目をつぶると、年の暮の田舍が目に浮びポン、ポタンともちつく音が聞えます。腰の強い田舍のもちが早くたべたい、私も田舍の子、お正月は故里へ！お父さんお母さんさぞ首を長くしておまちでせう。

處女の友改正定價表

每月一回一日發行

定價	一部	半年分	一年分
定價	拾五錢	八拾五錢	壹圓六拾五錢
郵稅	五厘	不要	不要
合計	拾五錢五厘	八拾五錢	壹圓六拾五錢

廣告料	一頁	半頁
特別面	貳拾五圓	／
普通面	拾五圓	九圓

注意

◎御註文は總て前金の事、前金盡きたる節は封紙に「前金切」と捺印して通知に代ふ◎御送金は振替貯金が最も便利なり◎郵券代用は一割增のこと◎外國行は郵稅實費を申受く

大正八年十月二十八日印刷納本
大正八年十一月一日發行

東京市本郷元町二丁目六十六番地
發行人印刷人　田所梛猪
編輯人　天野藤男

東京市麴町區紀尾井町三番地
處女會中央部

東京市京橋區弓町十二、三番地
印刷所　千代田印刷株式會社

東京市本郷區元町二ノ六六
處女の友發行所
電話小石川三一七四番
振替東京六一一九〇番

大賣捌　東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、至誠堂、上田屋、其他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

お歳暮と商品券

三越の商品券は東京本店、大阪支店、京城及大連出張所を通じて御望みの何品とでも取替へる事が出來ますから、御贈答品として此程便利な者がないと非常に重寶されます

◆歳暮年始御贈答品賣出し（十二月一日より）

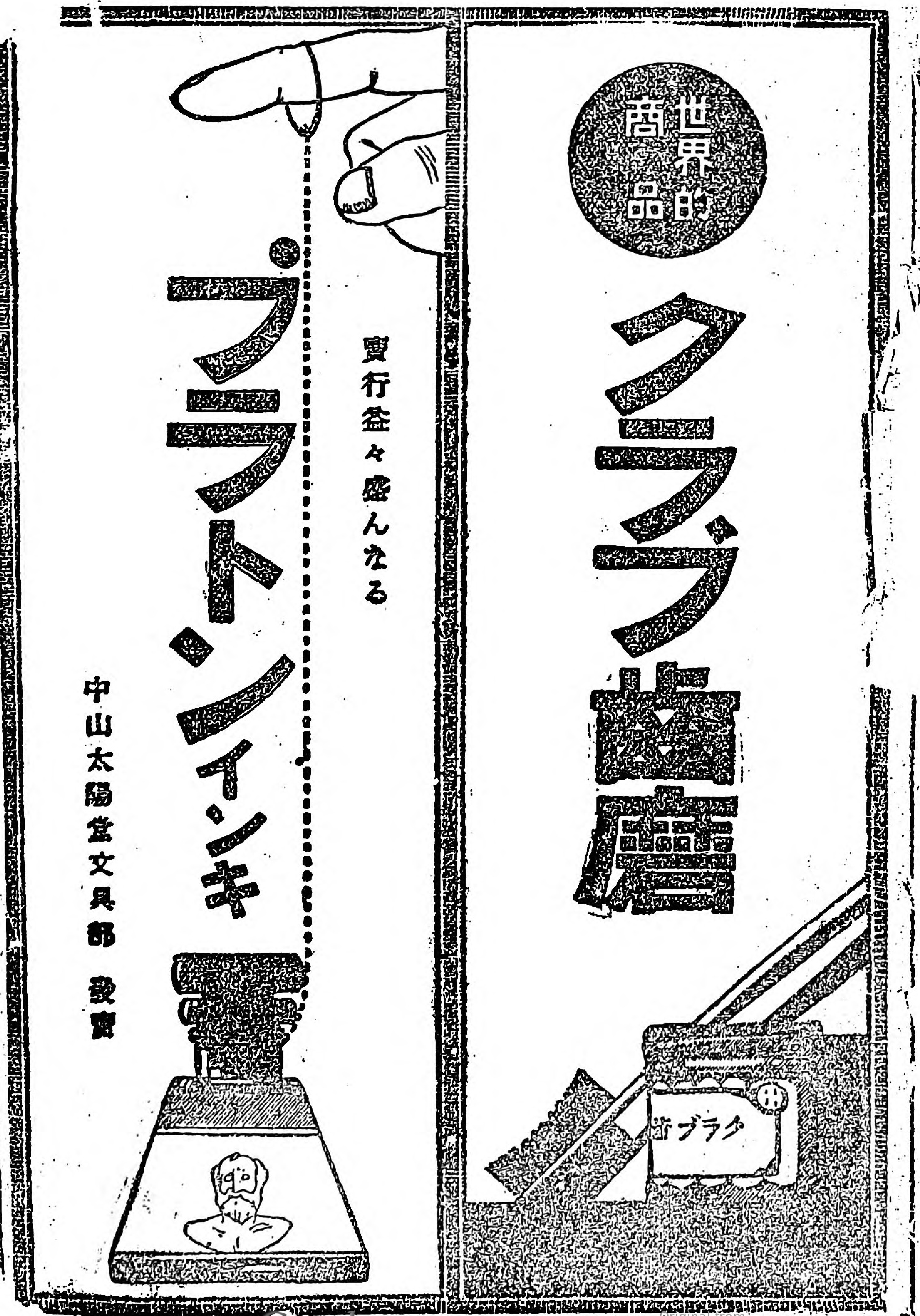
◆羽子板陳列（十二月一日より）

◆新年用食器陳列（十二月一日より）

三越の定休日 ◆ 十二月七日（第一日曜日）◆ 十二月廿一日（第三日曜日）

東京 三越呉服店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN